

調布市環境基本計画の中間見直し等に関する市民アンケート
調査結果報告書

令和2年3月
調 布 市

■□ 目 次 □■

第1章 調布市環境基本計画の中間見直し等に関する市民アンケート	1
1 調査概要	1
2 回答者属性	2
3 各設問の集計結果	4
(1) 環境問題に対する市民の意識水準	4
(2) 市の施策に対する評価と期待	8
(3) 環境に配慮した行動の取組状況	22
(4) 市民協働の促進に向けた課題と市民の意向	36
(5) 自由記述	50
4 市民意識の現状と今後の課題	53
(1) 集計結果のまとめ	53
(2) 今後の課題	54
第2章 事業者意識に関する文献調査	56
1 目的及び手法	56
2 中小企業における地球温暖化対策（省エネ等）の取組	57
(1) 地球温暖化対策に対する認知度	57
(2) 現状の取組内容	58
(3) 今後の取組	60
3 中小企業のSDGsに対する認知度と取組	61
(1) SDGsの認知度・対応状況	61
(2) 貢献（行動）できると考えるSDGsのゴール	61
(3) SDGsに取り組む際の課題	62
(4) SDGs推進の後押しになると思われる有効な支援策	62
4 事業者による地球温暖化対策等の取組促進に向けた課題	63
(1) 中小企業における取組の現状	63
(2) 中小企業における地球温暖化対策等の取組促進に向けた課題	63

資料編	65
資料1 補足集計表	66
問3 施策・取組に対する満足度・重視度のスコア	66
問4 今後の調布市の環境施策において充実させていくべき項目 年齢層別クロス集計表	77
問5 調布市からの案内や情報の入手経路 年齢層別クロス集計表	78
資料2 自由記述	79
施策1-① 緑の保全	79
施策1-② 水辺環境の保全・再生	84
施策1-③ 里山環境の維持・保全	85
施策1-④ 生物の生息空間の保全	87
施策1-⑤ 多様な自然環境の活用	89
施策2-① 景観形成の推進	90
施策2-② 歴史・文化環境の保全・継承	94
施策2-③ まちのうるおいの創出	95
施策2-④ 都市美化の推進	102
施策3-① 大気汚染の防止	107
施策3-② 水質汚濁の防止	109
施策3-③ 騒音・振動の発生抑制	110
施策3-④ 化学物質等の対策の推進	111
施策4-① 省エネルギーの推進	112
施策4-② 再生可能エネルギー等の活用推進	113
施策4-③ 環境に配慮したまちづくり	114
施策4-④ 地球温暖化への適応	118
施策4-⑤ 3R推進によるごみの減量	125
施策4-⑥ ごみの適正処理	127
施策5-① 環境情報の集約・活用・発信	130
施策5-② 活動を継続する担い手の育成と啓発活動の推進	134
施策5-③ 市民・事業者・市等の連携強化	136
その他の意見	138
資料3 調布市環境基本計画の中間見直し等に関する市民アンケート調査票	152

第1章 調布市環境基本計画の中間見直し等に関する市民アンケート

1 調査概要

(1) 目的

調布市環境基本計画の見直しに向けた基礎資料として、以下の事項を把握する。

- ①環境問題に対する調布市民の意識水準
- ②市の施策に対する評価と期待
- ③環境に配慮した行動の取組状況
- ④市民協働の促進に向けた課題と市民の意向

(2) 調査対象

調布市に住民登録をしている満16歳以上の市民3,000人（住民基本台帳より無作為抽出）

(3) 調査方法

郵送配布，郵送回収

(4) 調査実施期間

令和元（2019）年10月12日（土）～令和元（2019）年10月27日（日）

(5) 回収数・回収率

A 発送数	3,000
B 有効回収数	1,321
C 有効回収率（ $B/A \times 100$ ）	44.0%

(6) 調査項目

分類	調査項目
①環境問題に対する市民の意識水準	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境に関することへの関心（問1） ● 地球温暖化問題への関心（問2）
②市の施策に対する評価と期待	<ul style="list-style-type: none"> ● 調布市の環境に関する施策・取組に対する満足度・重視度（問3） ● 今後の調布市の環境施策において充実させていくべき思う項目（問4） ● 調布市からの案内や情報の入手経路（問5）
③環境に配慮した行動の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境に配慮した行動の実施状況（問6）
④市民協働の促進に向けた課題と市民の意向	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の環境活動への参加状況（問7） ● 参加した活動・関心のある活動（問8） ● 地域の環境活動に参加したいと思わない理由（問9） ● 地域の環境活動や環境活動団体に参加する人を増やしていくために重要だと思う取組（問10）
自由記述	<ul style="list-style-type: none"> ● 日ごろ環境について感じること，調布市へ伝えたいこと（問11）

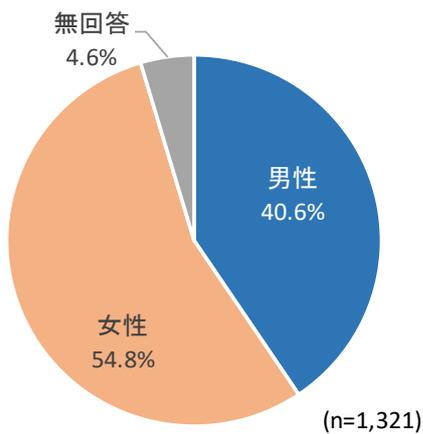
(7) その他

集計に当たって小数点第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が全体の計に一致しないことがある。

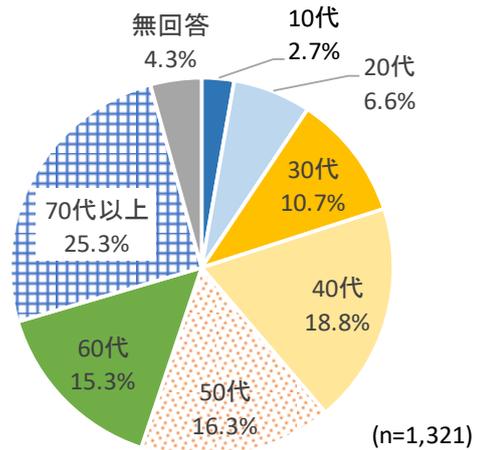
2 回答者属性

- 回答者の性別は、男性約40%、女性約55%で、女性がやや多い。
- 年齢は、70代以上が約1/4を占め、最も多い。
- お住まいの地域は、南部地域が約3割で最も多い。

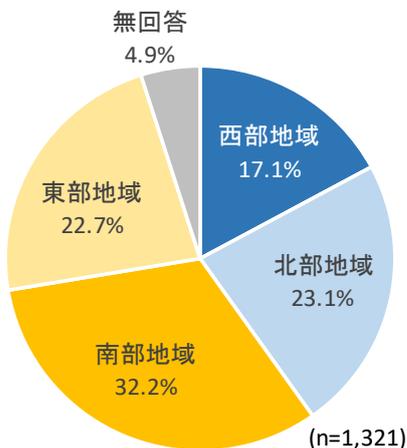
(1) 性別 (単回答)



(2) 年齢 (単回答)



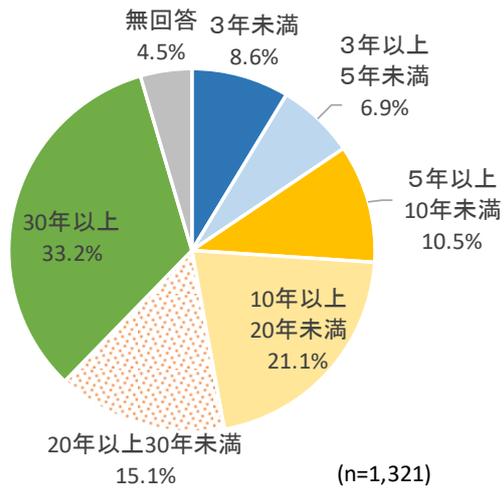
(3) お住まいの地域 (単回答)



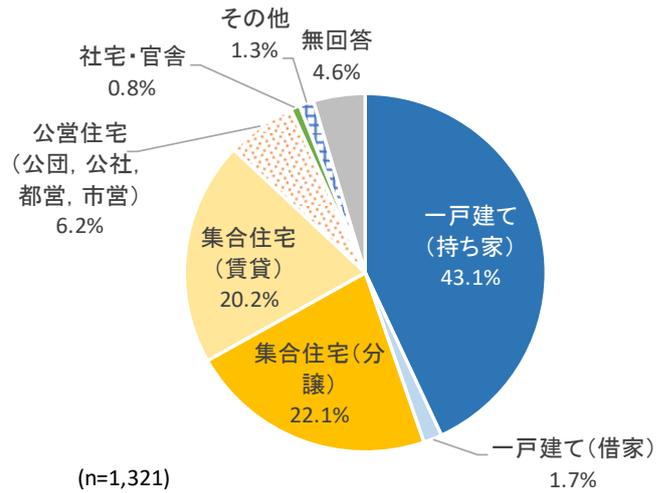
地域	町名
西部地域	飛田給, 上石原, 富士見町, 下石原 多摩川1・2丁目, 野水, 西町
北部地域	佐須町, 柴崎, 調布ヶ丘3・4丁目 深大寺元町, 深大寺北町, 深大寺東町 深大寺南町
南部地域	小島町, 布田, 国領町, 染地, 多摩川3～7丁目, 調布ヶ丘1・2丁目 八雲台
東部地域	菊野台, 東つつじヶ丘, 西つつじヶ丘 入間町, 仙川町, 緑ヶ丘, 若葉町

○調布市における居住期間は、20年以上が約半数を占めている。
 ○住宅の形態は、一戸建て（持ち家）が約4割で、次いで集合住宅（分譲）が約2割となっている。

(4) 調布市における居住期間（単回答）



(5) お住まいの形態（単回答）



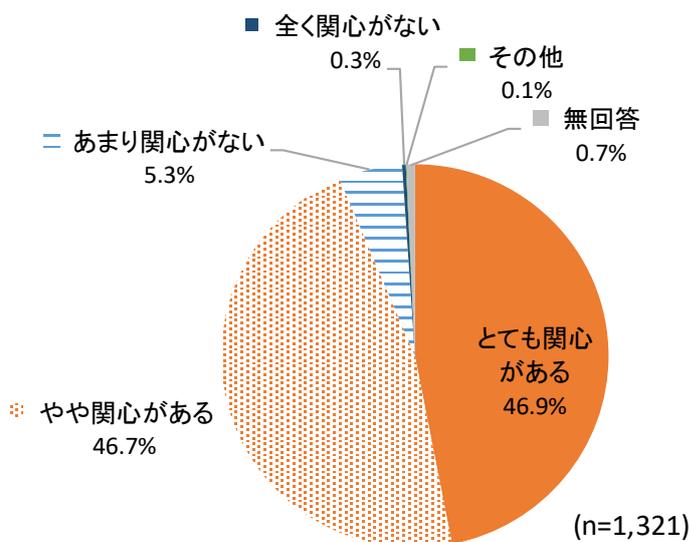
3 各設問の集計結果

(1) 環境問題に対する市民の意識水準

問1 あなたは、環境に関すること*に関心がありますか。(○は1つ)

*大気や水質、騒音・振動などの身近な生活環境、自然環境、資源・ごみ、エネルギーなどに関すること

○「とても関心がある」(46.9%)と「やや関心がある」(46.7%)がほぼ同数であり、回答者の9割以上が環境に関することに一定の関心を持っている。

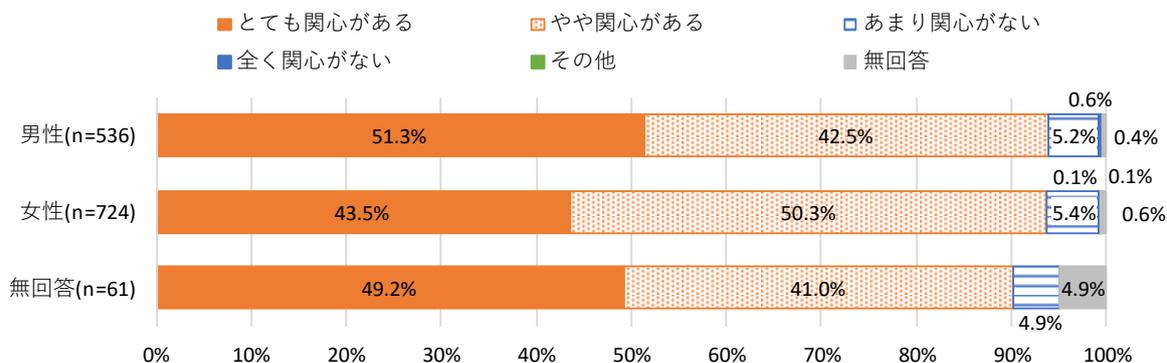


その他
● とても大切だと思います。

<問1 × 性別>

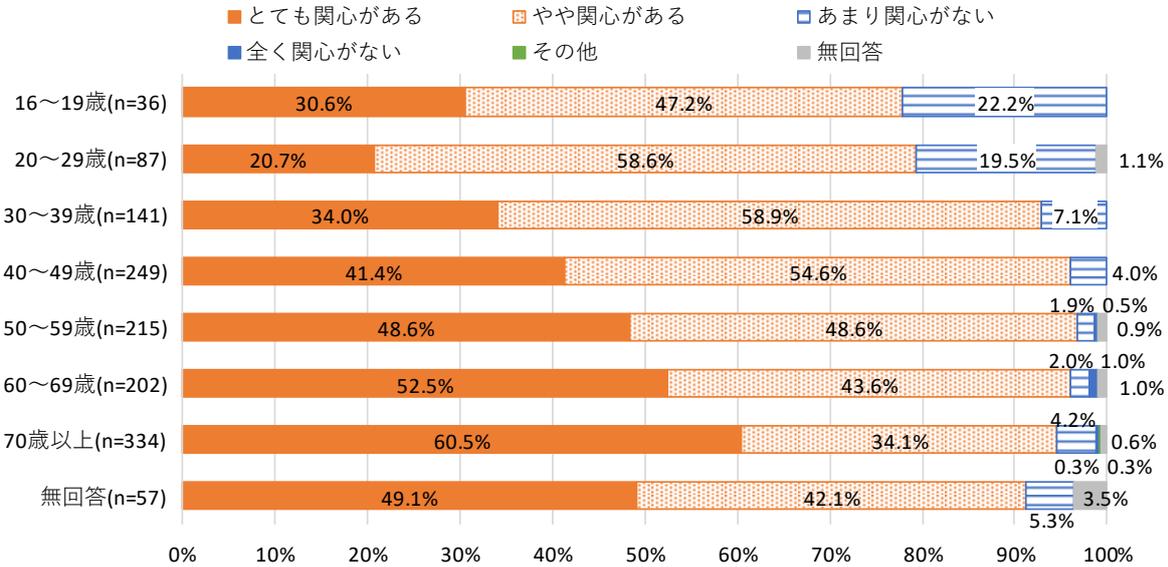
○男女別で、「とても関心がある」と「やや関心がある」の合計に差はほとんどない。

○「関心がある」については、男性の回答割合が女性よりやや高い。



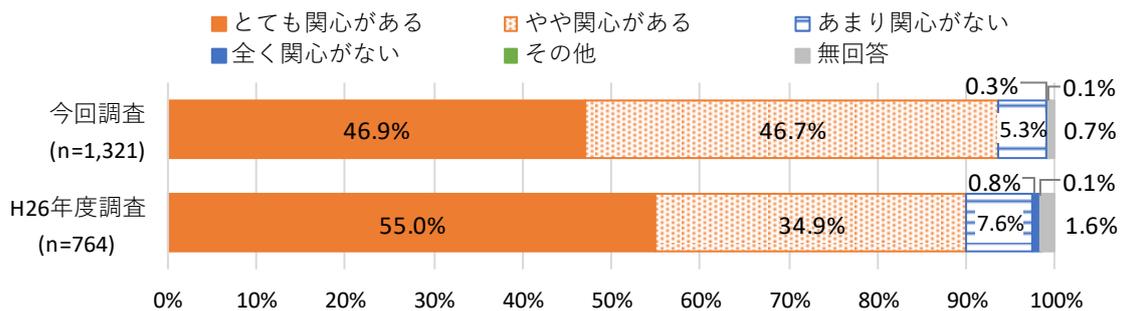
<問1 × 年齢層>

○年齢層別にみると、「とても関心がある」の割合が、全体として年齢層が上がるにつれて高まっている。



<問1 と過去の類似調査との比較>

○平成26年度に実施した「調布市の環境に関する市民アンケート調査」※（以下、「H26年度調査」という。）における同様の設問の結果と比較すると、「とても関心がある」の割合は、8ポイント低下しているが、「とても関心がある」と「やや関心がある」の割合の合計は、約4ポイント増加しており、関心の度合いはやや低下しているものの、一定程度関心を有する割合は高まっている。



※調布市の環境に関する市民アンケート調査

対 象：調布市に住民登録をしている18歳以上の市民2,000人（住民基本台帳より無作為抽出）

調査方法：郵送配布，郵送回収

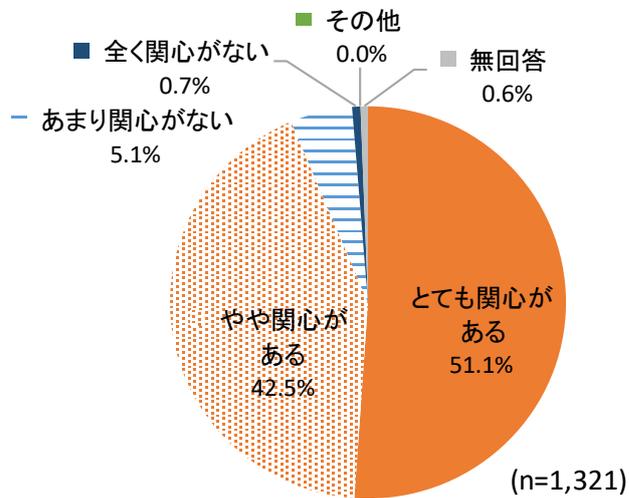
調査期間：平成27（2015）年1月20日～平成27（2015）年2月6日

回収数：764通

回収率：38.2%

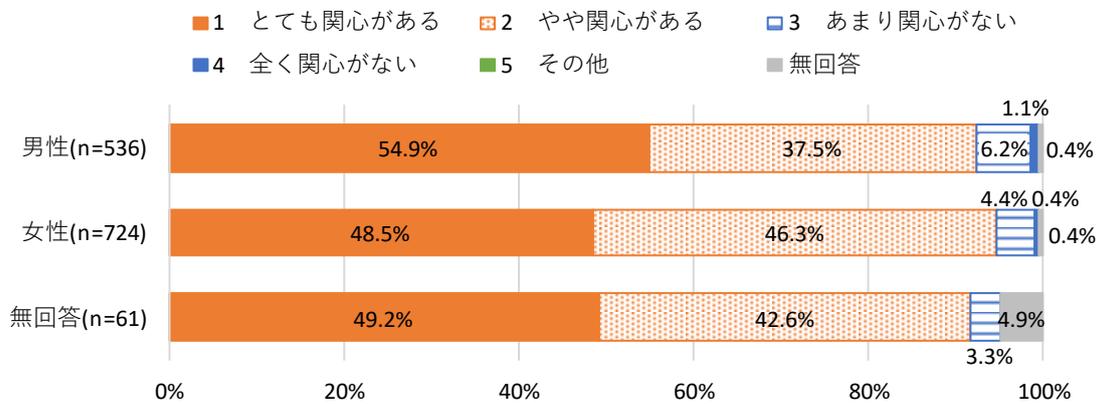
問2 あなたは、地球温暖化問題に関心がありますか。(〇は1つ)

○「とても関心がある」(51.1%)が最も多く、次いで「やや関心がある」(42.5%)が多い。
 ○「問1 環境に関すること」と同様に、回答者の9割以上が地球温暖化問題に関することに一定の関心を持っている。



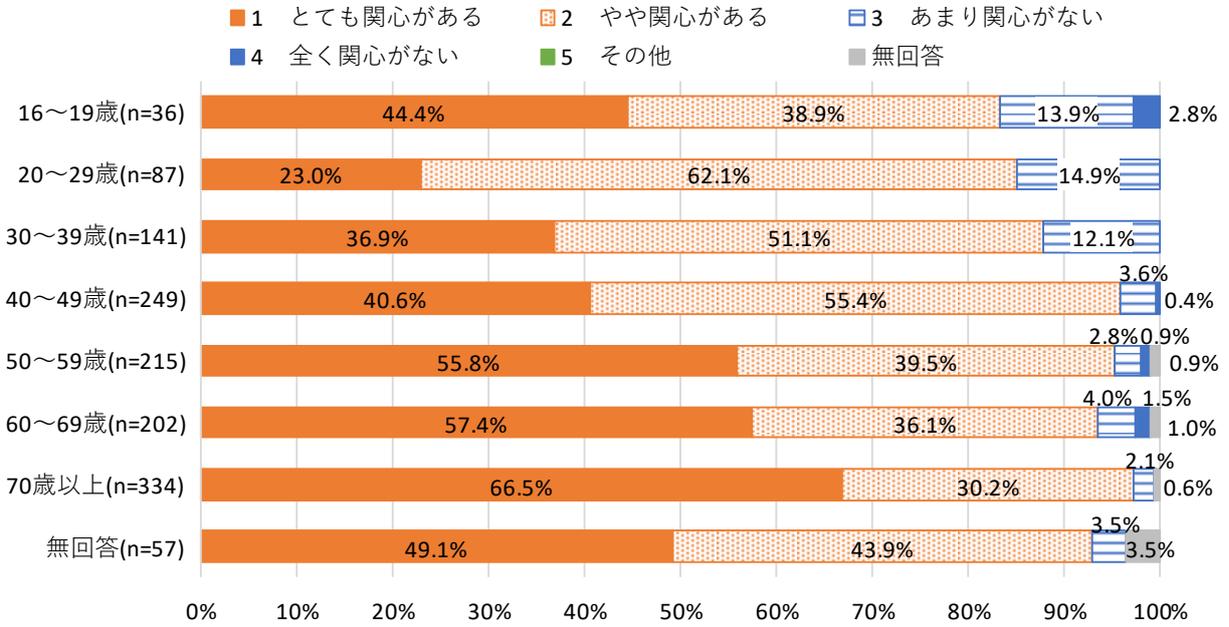
<問2 × 性別>

○男女別で、「とても関心がある」と「やや関心がある」の合計に差はほとんどない。



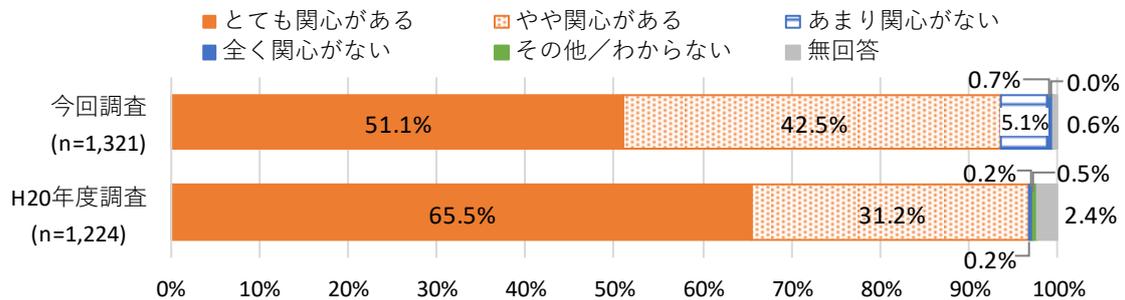
<問2 × 年齢層>

○各年齢層とも、「とても関心がある」と「やや関心がある」の合計が8割を超えている。
 ○「とても関心がある」については、20歳以上について年齢層が上がるにつれて割合が高まっている。



<問2 と過去の類似調査との比較>

○平成20年度に実施した「調布市地球温暖化防止意識調査（市民アンケート）」※（以下、「H20年度調査」という。）における同様の設問の結果と比較すると、「とても関心がある」と「やや関心がある」の割合の合計が約3ポイント減少し、「とても関心がある」の割合については約14ポイントと大きく低下している。



※調布市地球温暖化防止意識調査（市民アンケート）
 対 象：市内居住世帯3,000世帯 回収数：1,224通 回収率：40.8%

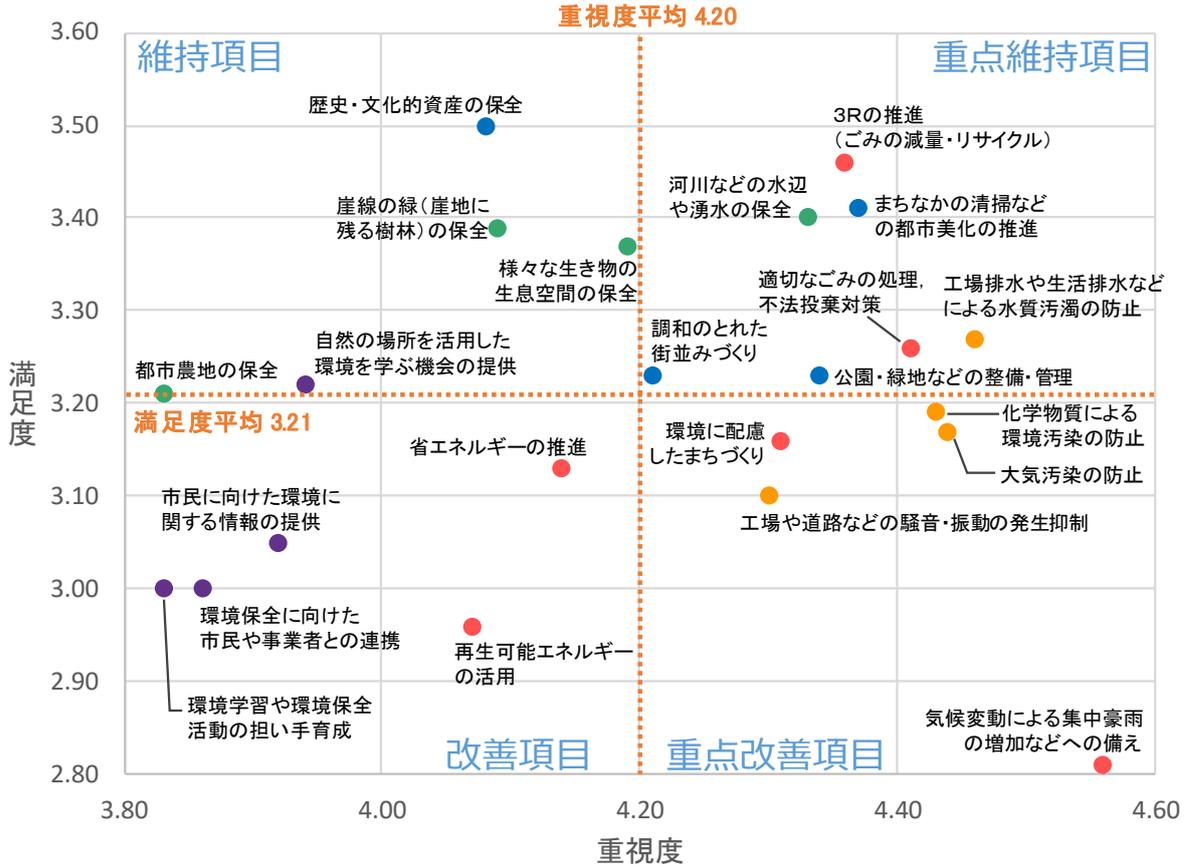
(2) 市の施策に対する評価と期待

問3 調布市環境基本計画に定める5つの基本目標に基づく施策・取組についてお聞きします。それぞれの施策・取組に対する①満足度と②重視度について、項目ごとにあなたの考えにもっとも近い答えを1つずつ選んでください。(①満足度、②重視度のそれぞれについて○を1つ)

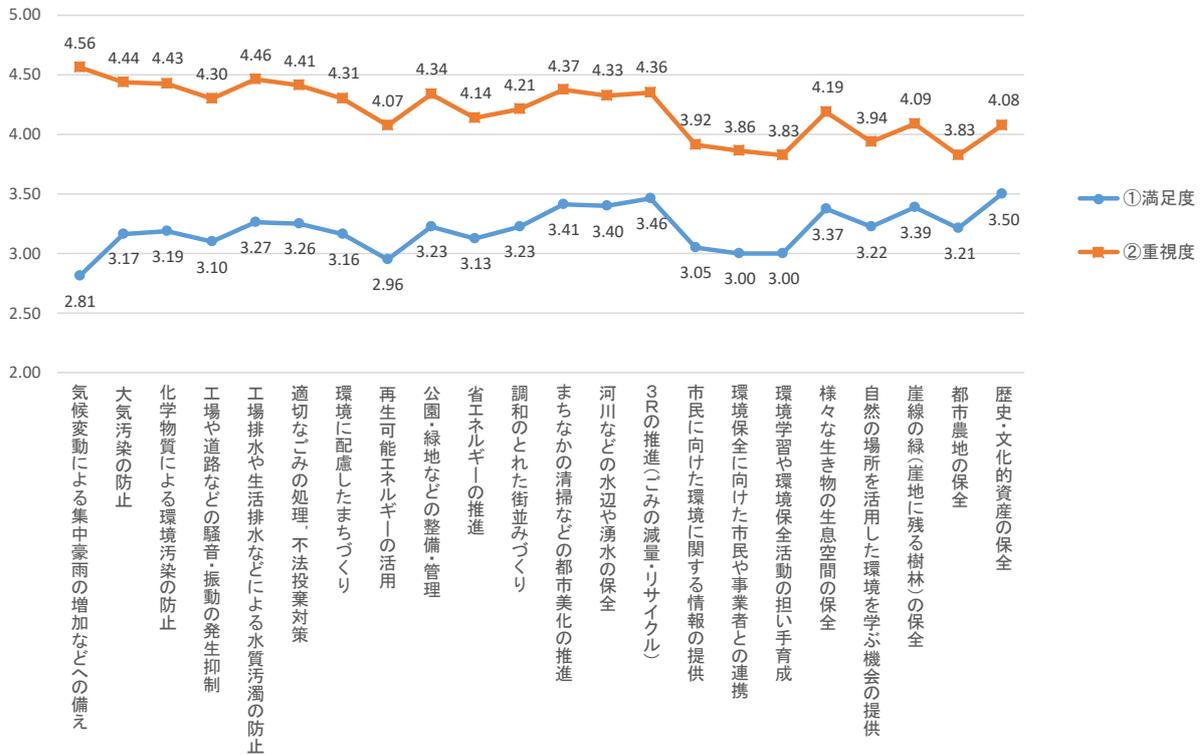
- 満足度・重視度ともに高く、重点的に維持することが望まれる施策・取組は、基本目標2に関する施策・取組(「まちなかの清掃などの都市美化の推進」, 「調和のとれた街並みづくり」, 「公園・緑地などの整備」)や、基本目標4のうち循環型まちづくりに関する施策・取組(「3Rの推進(ごみの減量・リサイクル)」, 「適切にごみの処理, 不法投棄対策」)などである。
- 満足度は高いが重視度は平均からやや低く、今後も維持することが望まれる施策・取組は、主な基本目標1に関わる施策・取組(「崖線の緑(崖線に残る樹林)の保全」, 「様々な生きものの生息空間の保全」等)である。
- 満足度は低いが重視度が高く、重点的な改善が求められる施策・取組は、「気候変動による集中豪雨の増加などへの備え」であるが、調査期間中に台風19号により調布市を含む多摩川沿川地域をはじめ各所で大規模な水害が発生したことが、回答に影響した可能性がある。
- 満足度・重視度ともに低く、改善を要する施策・取組は、基本目標5に関する施策・取組(「市民に向けた環境に関する情報の提供」, 「環境学習や環境保全活動の担い手育成」, 「環境保全に向けた市民や事業者との連携」等)、基本目標4のうち低炭素型まちづくりに関する施策・取組(「省エネルギーの推進」, 「再生可能エネルギーの活用」等)である。

【満足度・重視度の算出方法】

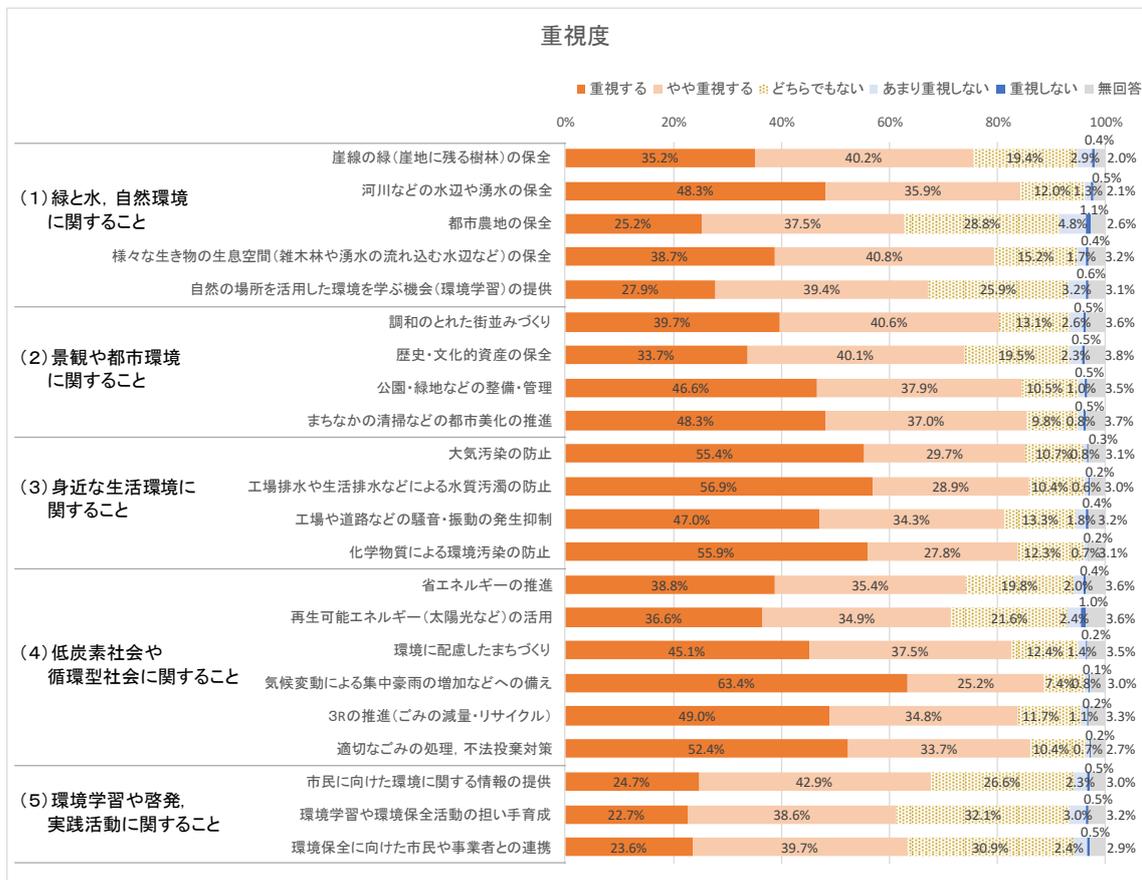
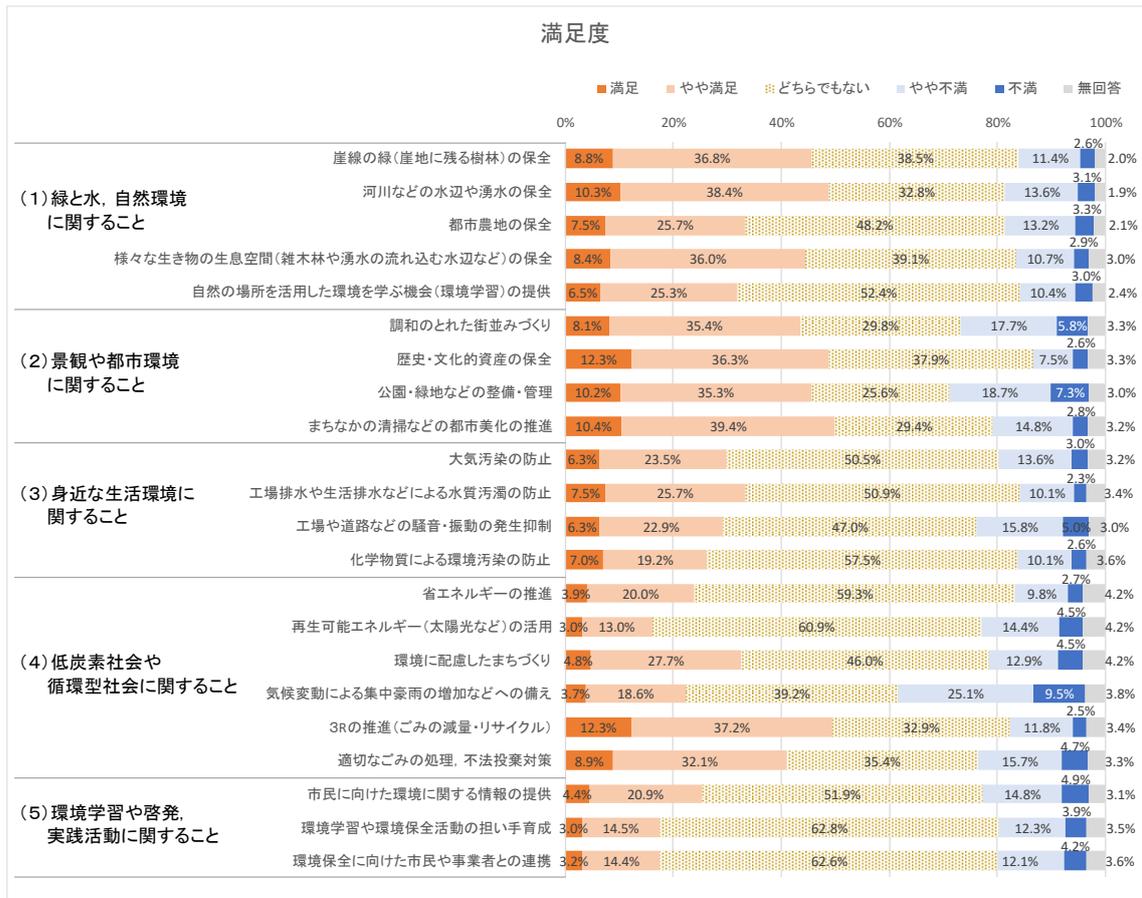
- ・①満足度と②重視度の各選択肢に以下のスコアを設定した。
 - ① 満足度: 満足5, やや満足4, どちらでもない3, やや不満2, 不満1
 - ② 重視度: 重視する5, やや重視する4, どちらでもない3, あまり重視しない2, 重視しない1
- ・各選択肢のスコア×回答数の合計値を、無回答を除いた回答数の合計で割った値を各施策の満足度、重視度の値として算出した。
計算式: {(各選択肢のスコア [A] × 回答数 [B]) の合計} ÷ 無回答を除いた回答数の合計 [C]
- ・各施策・取組の回答数とスコアは資料編 66 ページ～76 ページに掲載した。



【参考】満足度・重視度のスコア (左から満足度と重視度の差が大きい順に表示)



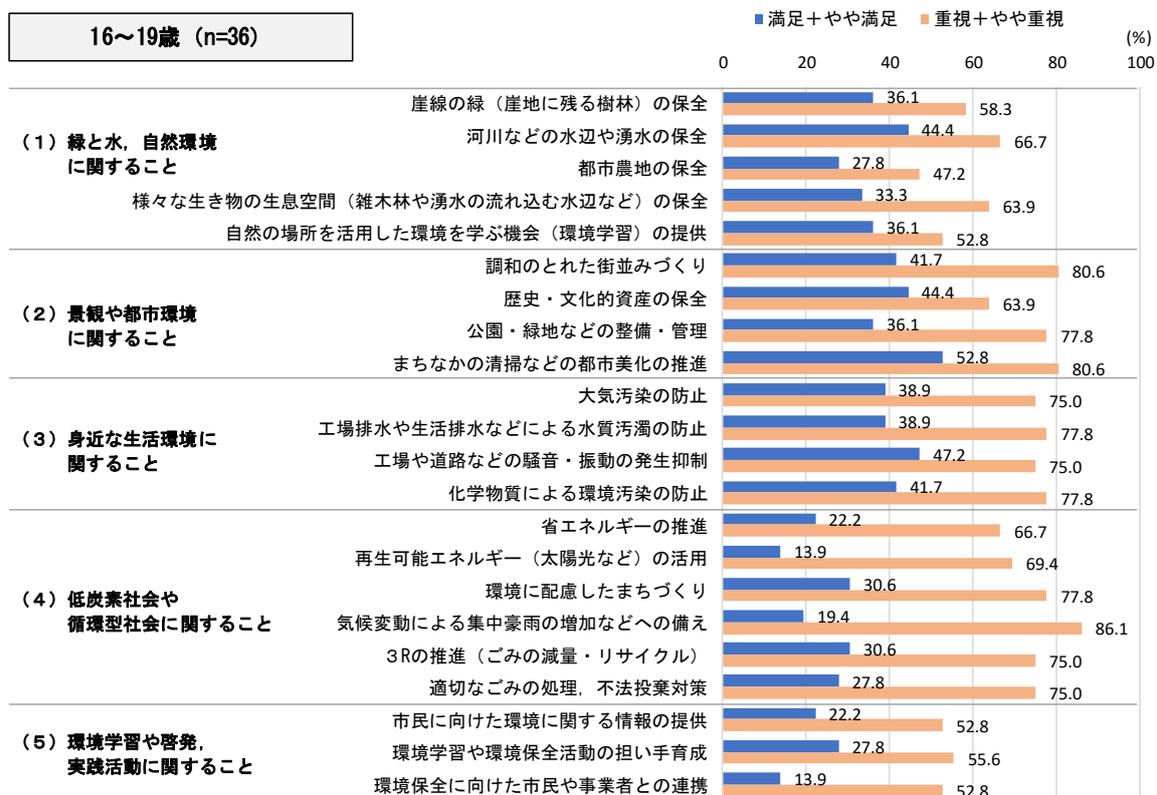
【参考】単純集計結果

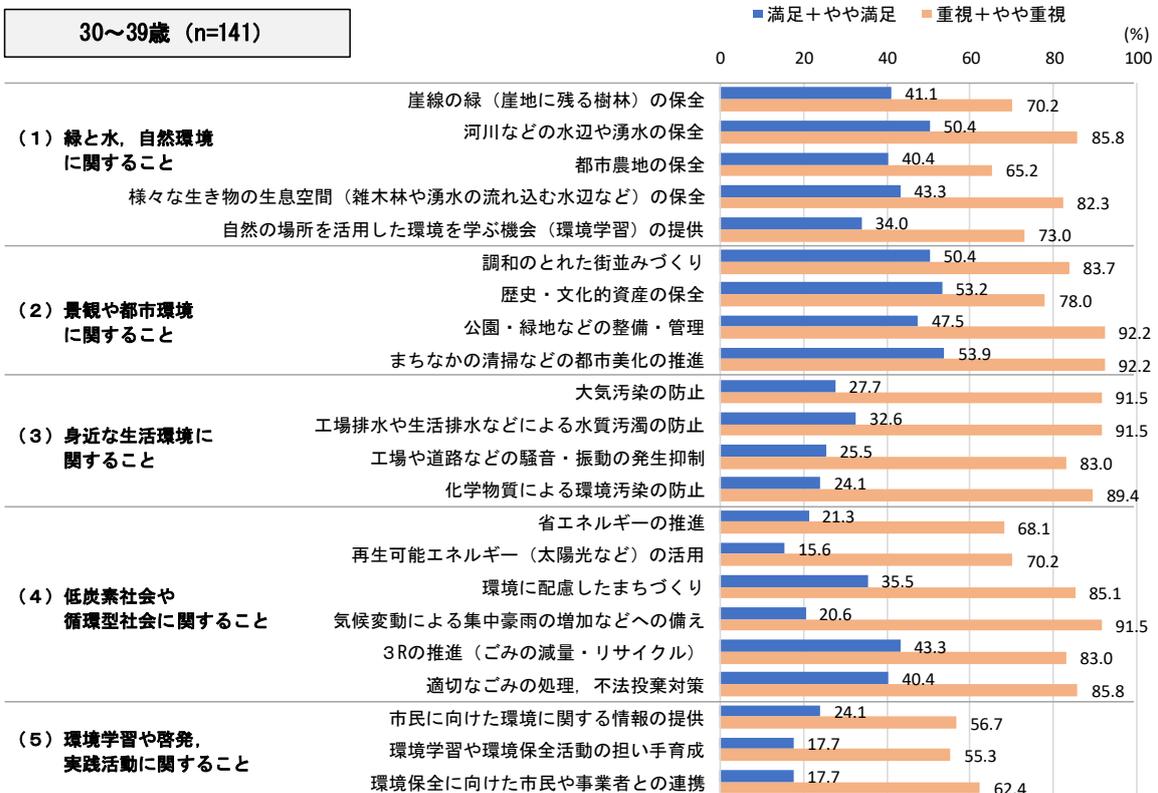
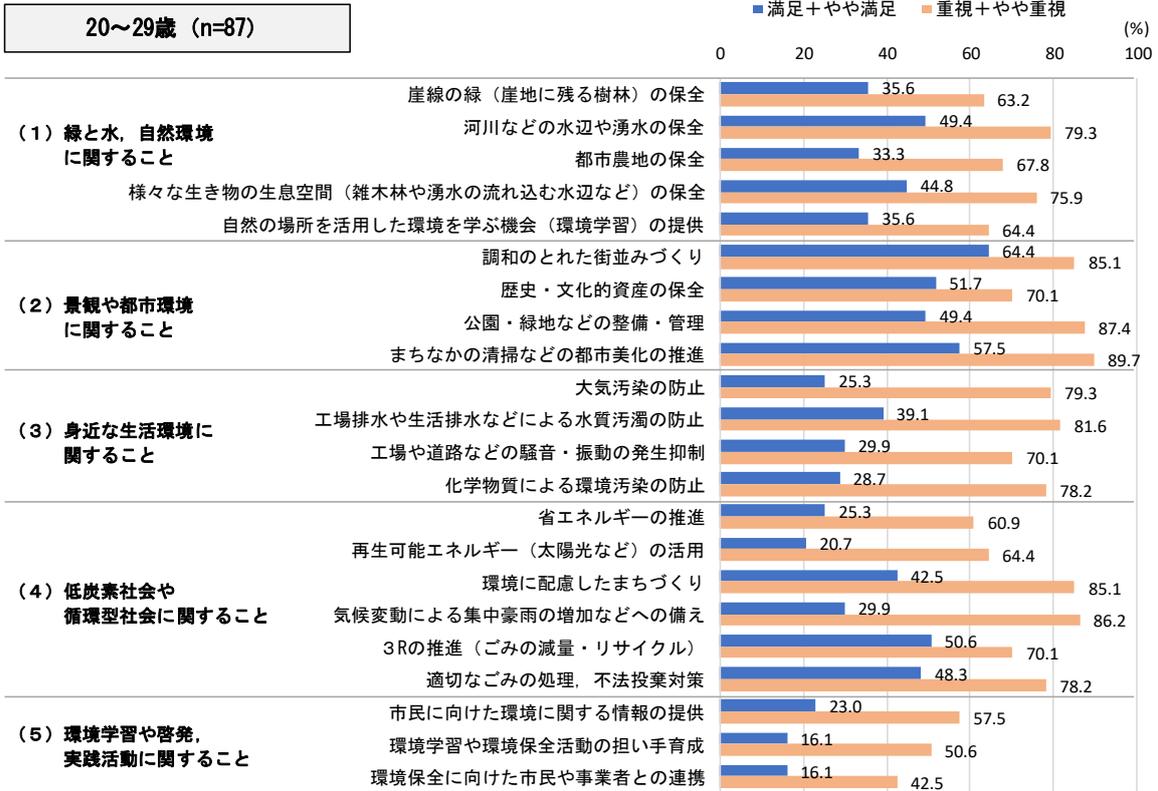


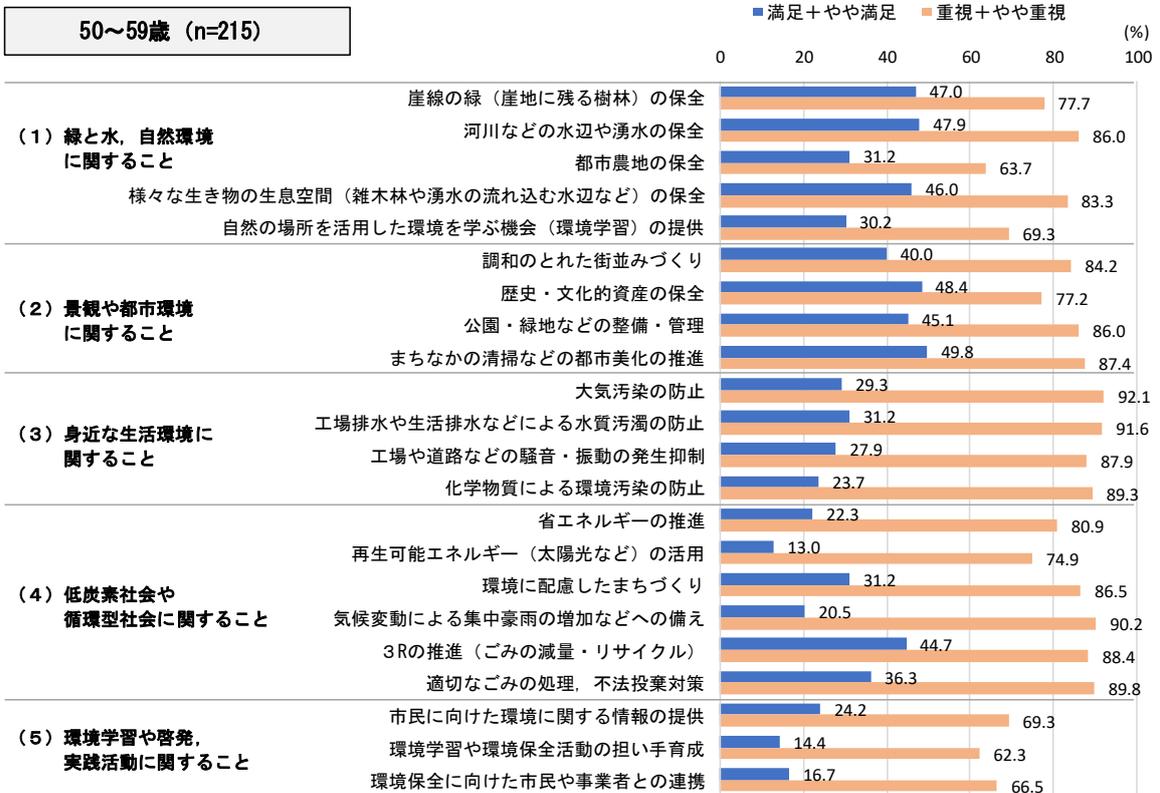
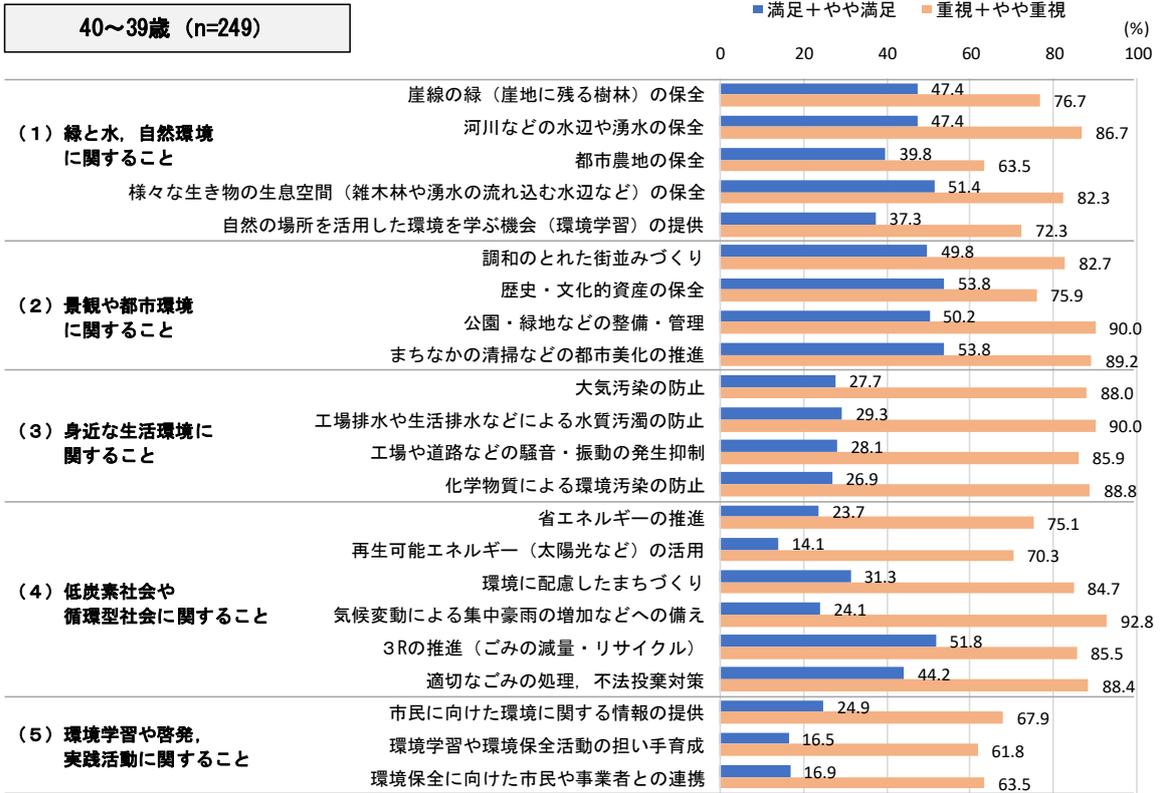
<問3 × 年齢層>

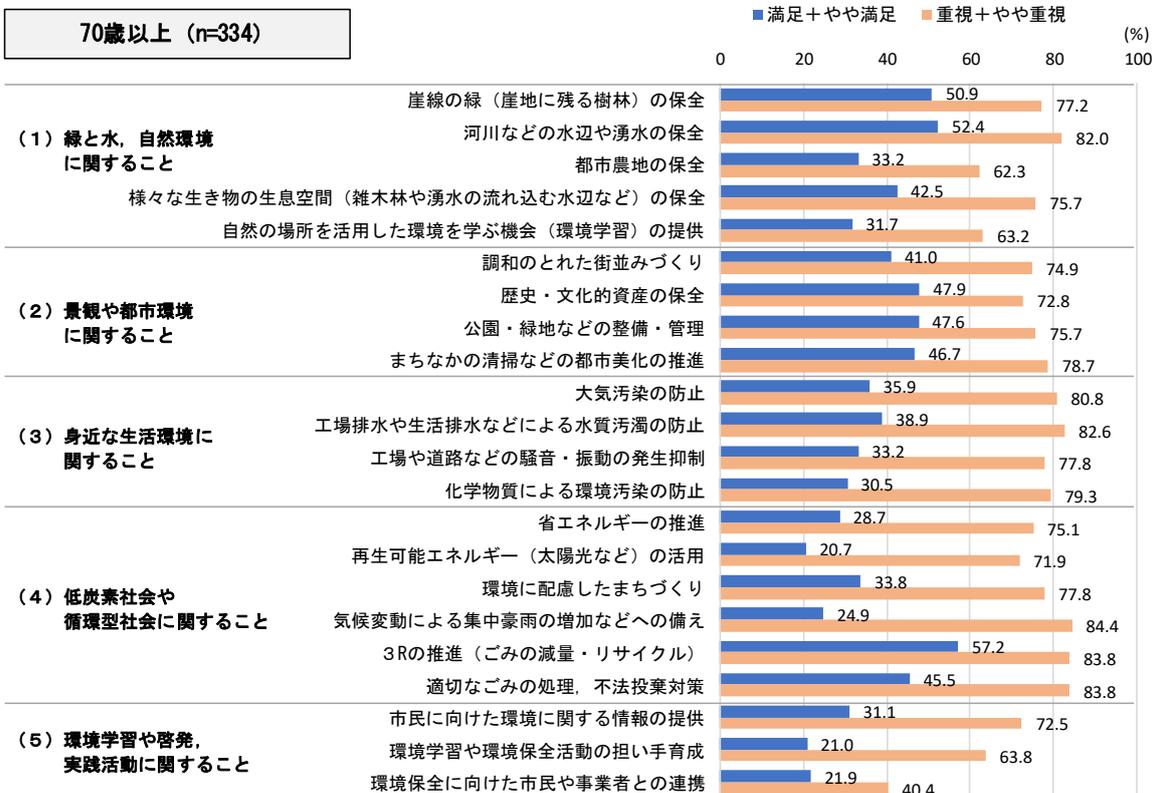
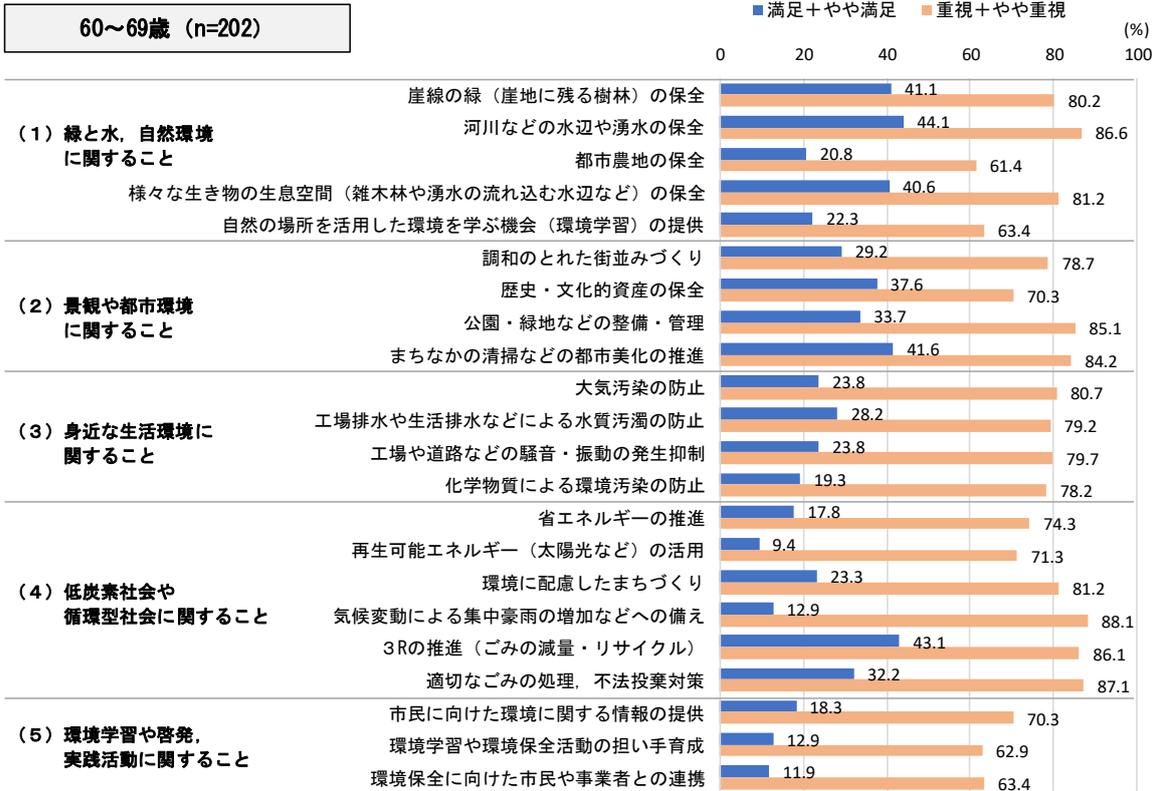
○各施策・取組について、「満足」と「やや満足」の割合の合計及び「重視する」と「やや重視する」の割合の合計を年齢層別に集計した結果、全体的な傾向として「満足」と「やや満足」の合計値については、年齢層による大きな違いはみられない。

○「重視する」と「やや重視する」の割合の合計については、30代・40代・50代において、「(3)身近な生活環境」に関する施策・取組を選んだ割合が、他の年代よりやや高い。また、「環境保全に向けた市民や事業者との連携」についても、30代・40代・50代が選んだ割合が、他の年代よりやや高い。



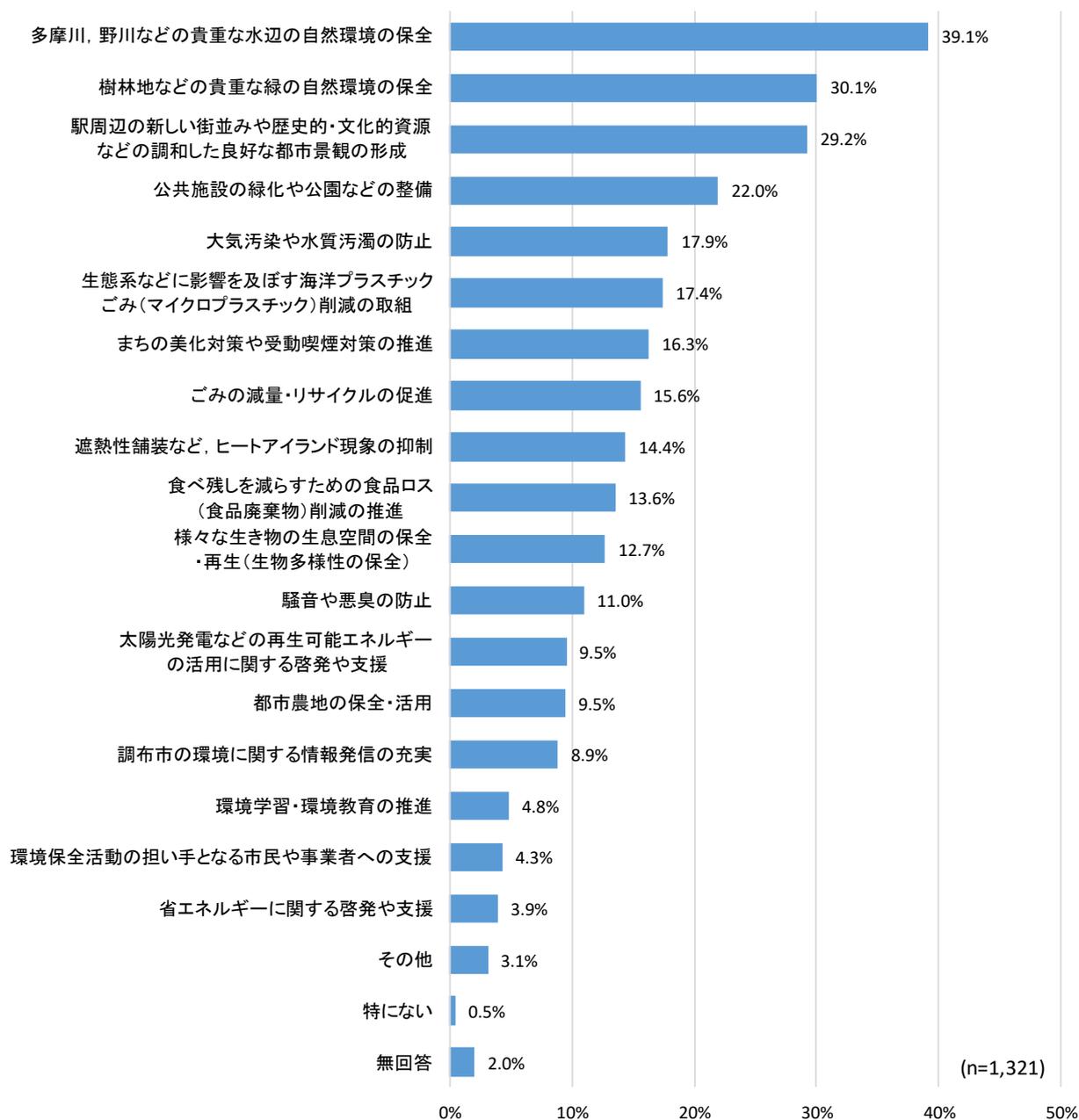






問4 今後の調布市の環境施策において、充実させていくべきだと思う項目は何ですか。(〇は3つまで)

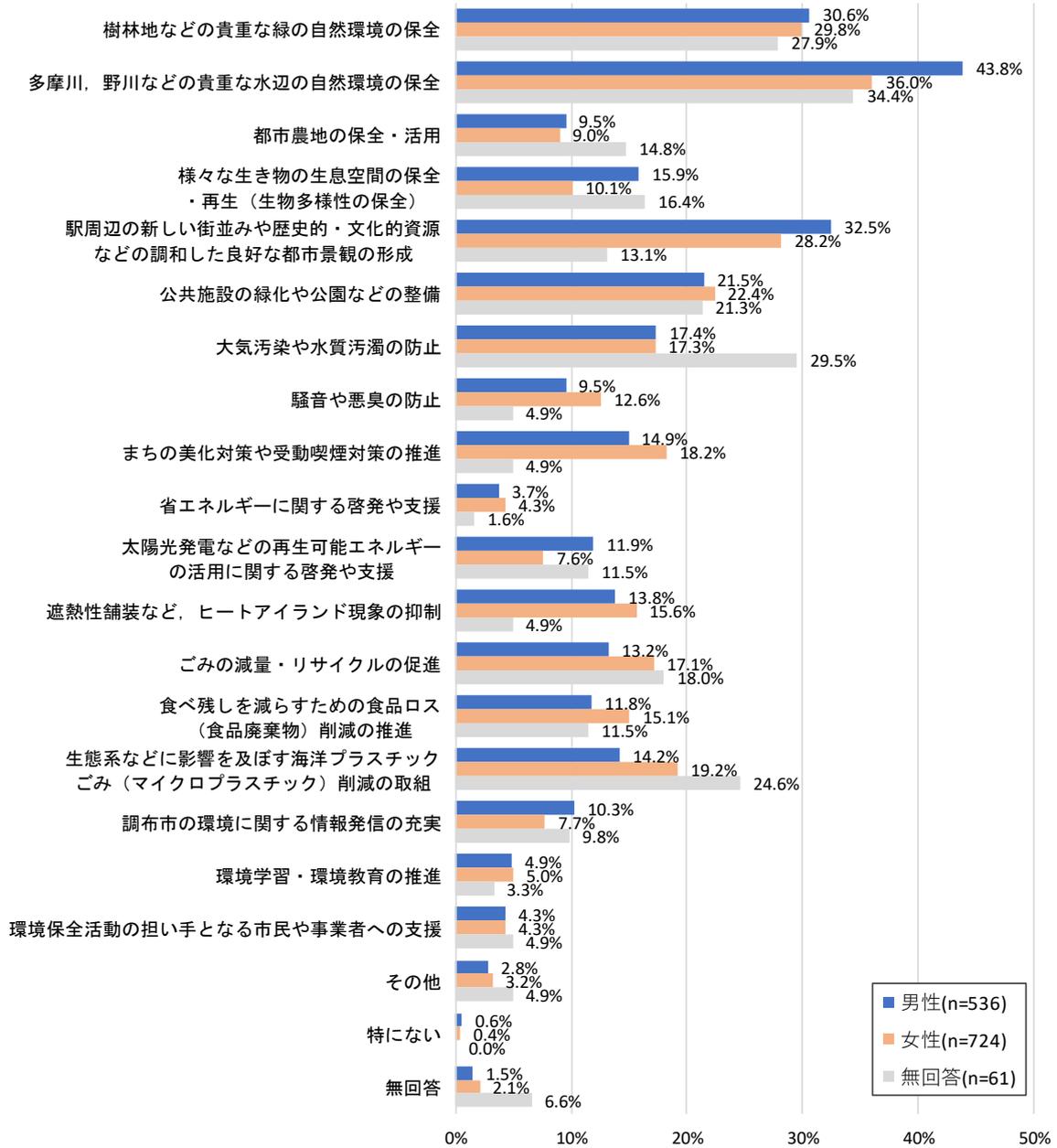
○今後充実させていくべきだと思う環境施策は、「多摩川、野川などの貴重な水辺の自然環境の保全」(39.1%)、「樹林地などの貴重な緑の自然環境の保全」(30.1%)、「駅周辺の新しい街並みや歴史的・文化的資源などの調和した良好な都市景観の形成」(29.2%)の順に多い。



その他	※原則として原文のまま掲載している
気候変動による影響への適応（水害対策）	<ul style="list-style-type: none"> ● 多摩川の堤防の整備 ● 多摩川氾濫防止，ドッグランの充実（増やしてほしい） ● 台風などの大雨による河川の治水対策，電線の地下埋設住宅の災害対策の為の補強などへの補助 ● 水害対策 ● 気候変動によっておこる災害への対策 ● 台風時（火災時）の対策⇒避難所の準備等が充分ではなかったと聞いたので。（このアンケートには外れているのかもしれませんが） ● 台風19号は私達の命の問題市としてどんな事を学んだかその一点について情報を出してほしい。命の問題です。 ● 川の氾濫 ● 多摩川の集中豪雨対策 ● 環境変化に伴う河川の護岸整備 ● 多摩川の治水 ● 台風，暴風雨による多摩川の氾濫対策 ● 川の氾濫防止対策 ● 大雨の時の仙川のはんらん等の安全対策の強化 ● 用水路，水門，多摩川などの水害対策 ● 多摩川の安全対策 ● 集中豪雨の増加による備え→10月12日の台風19号による災害発生を教訓として！ ● 治水対策。19号の時に野川が氾濫寸前だった。自然災害に対する対策。有事の際の避難所。案内等の対策。 ● 多摩川の大雨による安全
資源・ごみ関連	<ul style="list-style-type: none"> ● 容り法プラスチックは分別せず世田谷区等と同様エネルギーカバリにすべき。 ● ごみ処理技術そのものの革新 ● ごみ袋の値段をもう少し安くしてポイ捨て等を減らす。 ● ペットボトルが一番問題です。減少させる手だてを考えてほしい。
用水路等の整備	<ul style="list-style-type: none"> ● 根川用水路の整備 ● 野川，根川の整備。電柱を減らす
電線類地中化	<ul style="list-style-type: none"> ● 電柱の地下化（2件）
歩道の改善	<ul style="list-style-type: none"> ● 歩道を車イスが通れるようにしてほしい ● 歩道が狭すぎるので広げていくことを考えて ● 美化対策の以前に，道路，歩道の整備を。三鷹通り等，車イスの安全な運転ができない
その他のご意見	<ul style="list-style-type: none"> ● 全て必要 ● 3つ選ぶのはむずかしい全項目必要 ● 駅周辺だけでなく調布市全体の環境施策を考えてください。 ● 無料駐輪場の拡大・増設 ● 一般道路沿いのさつき等の手入れがされずかれたまま，最近は咲かず ● 街の清掃の仕方，その人員を増加させる事と方法 ● 蚊が異常に多い ● ボール遊びできる公園 ● 20号沿いの歩道が平らでなく，雨が降ると巨大な水溜りが出現する。平らにして欲しい。 ● 各施策の進捗状況の情報が少ない気がします。 ● スーパーなど商店街がない ● これから一人一人が考えていかなければならないと思います ● ペットのための災害対策

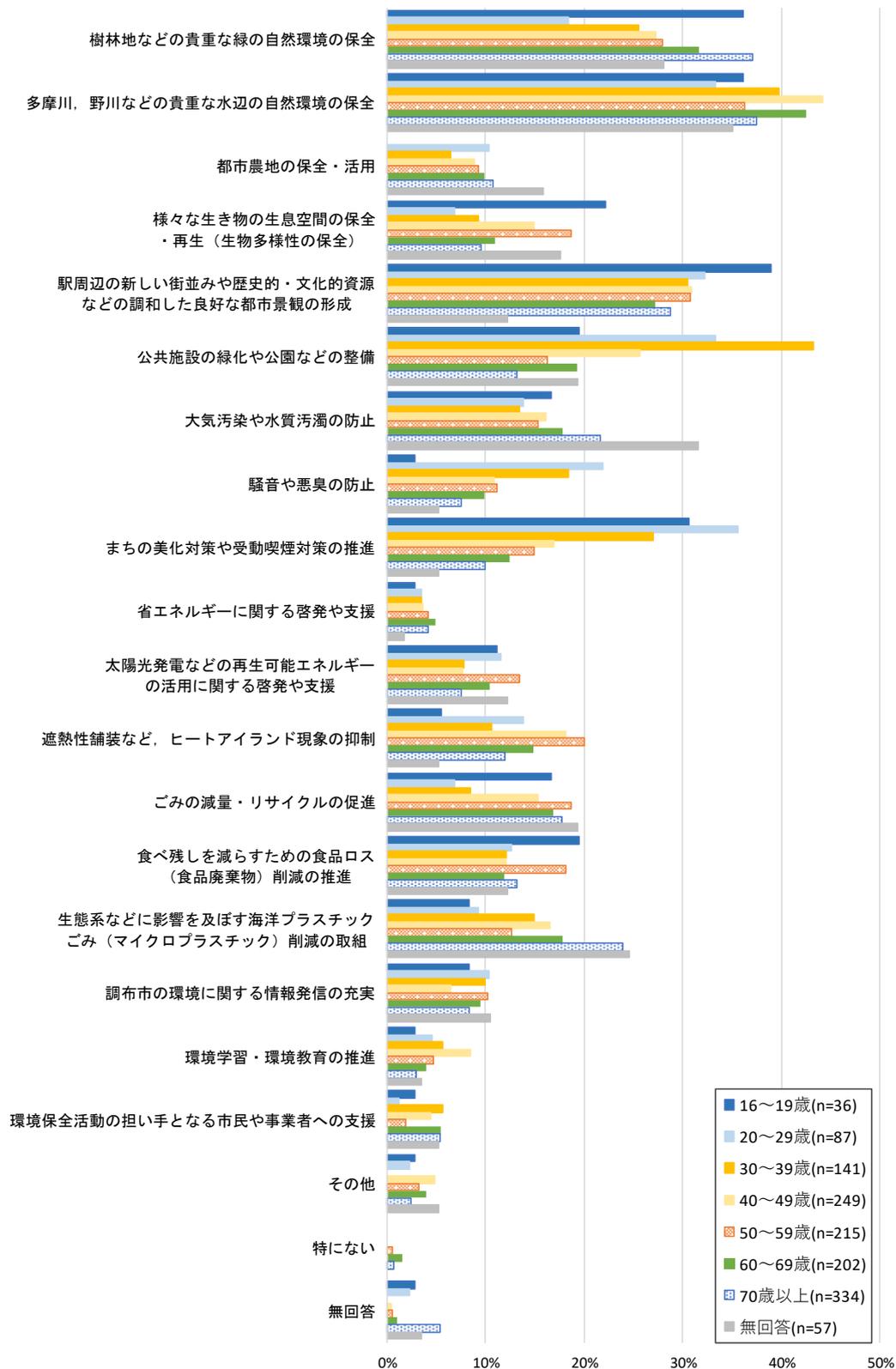
<問4 × 性別>

○男女別で、今後充実させていくべきだと思う環境施策に大きな違いは見られないが、「多摩川、野川などの貴重な水辺の自然環境の保全」については、男性が選択した割合が女性より7.8ポイントと他の項目より高い。



<問4 × 年齢層>

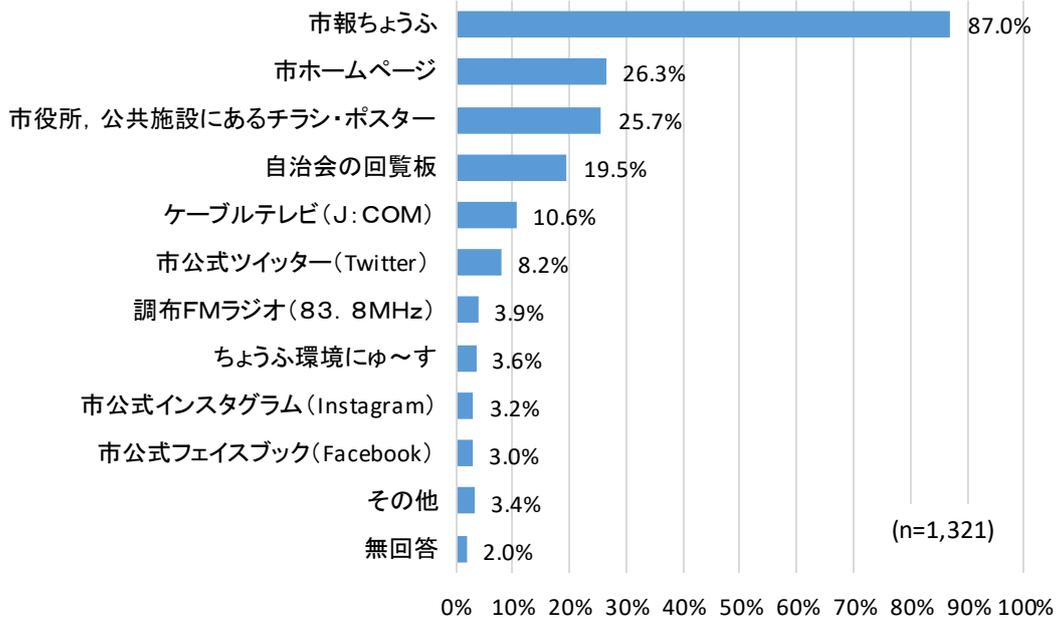
○各選択肢を年齢層別にみると、「公共施設の緑化や公園などの整備」、「まちの美化対策や受動喫煙対策の推進」は、20代・30代が選択した割合が他世代より高い。また、「生態系などに影響を及ぼす海洋プラスチックごみ（マイクロプラスチック）削減の取組」は、60代及び70歳以上が選択した割合が他世代より高い。 *各年齢層の回答の割合は資料編 77 ページに掲載



問5 あなたは、調布市からの案内や情報について、どこで入手されていますか。また、どのような媒体であれば入手できると思いますか。(〇はいくつでも)

〇市からの案内や情報を入手しているまたは入手できると思う手段は、「市報ちょうふ」(87.0%)が最も多く、次いで「市ホームページ」(26.3%)、「市役所、公共施設にあるチラシ・ポスター」(25.7%)の順に多い。

〇紙媒体(市報ちょうふ、チラシ・ポスター、自治会の回覧板)の割合が高く、SNS(ツイッター、フェイスブック、インスタグラム)の割合は紙媒体に比べ低い。



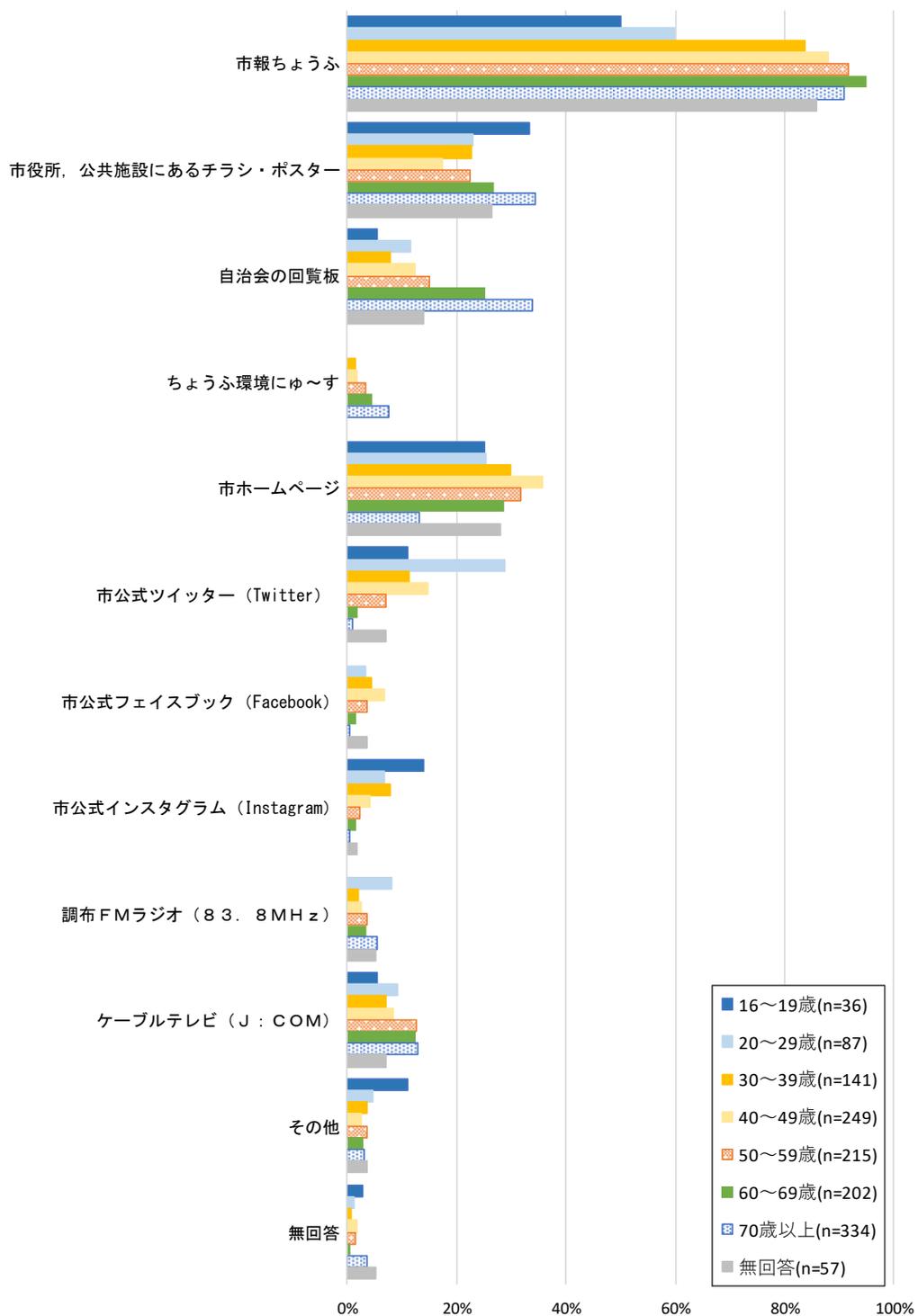
その他		※原則として原文のまま掲載している
駅、電車内の広告媒体	<ul style="list-style-type: none"> ● 駅に貼り紙 ● 駅、改札内側に掲示する ● 電車の中吊りや病院の待ち合いなどにあれば、目にとまるのですが、今は自ら情報を得にいかないと得られず、収集できていない現状ですので、無意識に見てしまうところでPRしてほしい。 ● 各駅にチラシ、ポスターを置く ● 電車の中の広告モニターの利用 ● 駅での広告媒体を使った情報提供 ● 町内の掲示板、駅構内にポスター設置、多くの人が注視まではいなくても目にすると思うから ● 頼んでもないのにマンションポストに市報などがどっさり入っているが、紙と人件費のムダ。公共施設や駅に置いておけば良い。 	
SNS、インターネット媒体	<ul style="list-style-type: none"> ● LINE ● LINE公式アカウント ● ご近所SNSマチマチ、Googleニュース ● iPhoneアプリ ● 調布新聞、コサイトなどのWEBから。 ● 調布経済新聞、ちょうふどっとこむ ● メール ● メール(携帯) ● 調布市マルちめーる ● メーリングリスト参加出来る活動について知らずに終ることが多いと思うので、手軽に参加につなげるため、いくつか項目ごとにメーリングリストに登録出来るといいと思いました。1カ月に1~2回案内をまとめてあるメールが届き、そこから参加申込みも出来る・・・など。メールが多すぎると困りますが、活動を知りやすくなると思います。 	

その他	※原則として原文のまま掲載している
知人から、口コミ	<ul style="list-style-type: none"> ● 人づて ● 市民から ● 口コミ ● 近所の人との情報交換 ● サークルの仲間同志の会話等で入手。(アナログ人間なので、詳しくはHPでどうぞ！と云われても困ります！) ● 老人会
その他の媒体（新聞チラシ、自治会の掲示板・配布物、防災情報等）	<ul style="list-style-type: none"> ● 新聞チラシ ● 新聞と一緒に入っている広告，チラシ，など。 ● 自治会の回覧板をもっと活用してほしい ● 自治会の街中の掲示板をみる ● 市の配布物 ● 調布市総務部総合防災安全課 ● 調布市防災・安全情報メール ● 直接話しが聞ける講演会の実施 ● 細かい活字での告知は目の負担有，高齢者は関心をひきつけるようにさせることから考える。 ● AFLAC
入手していない，特になし	<ul style="list-style-type: none"> ● 特になし／なし（3件） ● 入手していない（2件） ● 何もチェックしていない ● 入手している気がしてない ● 何も見てないです。あまり見る気になれません。

<問5 × 年齢層>

- 各選択肢を年齢層別にみると、「市報ちょうふ」は30代以上の年齢層において8割を超えている。
- 「市役所、公共施設にあるチラシ・ポスター」及び「市ホームページ」は、年齢層による差が小さい。
- 全体的な利用率は低いものの、「市公式ツイッター（Twitter）」は20代、「市公式インスタグラム（Instagram）」は10代が他世代より高い割合で利用している。

*各年齢層の回答の割合は資料編78ページに掲載



(3) 環境に配慮した行動の取組状況

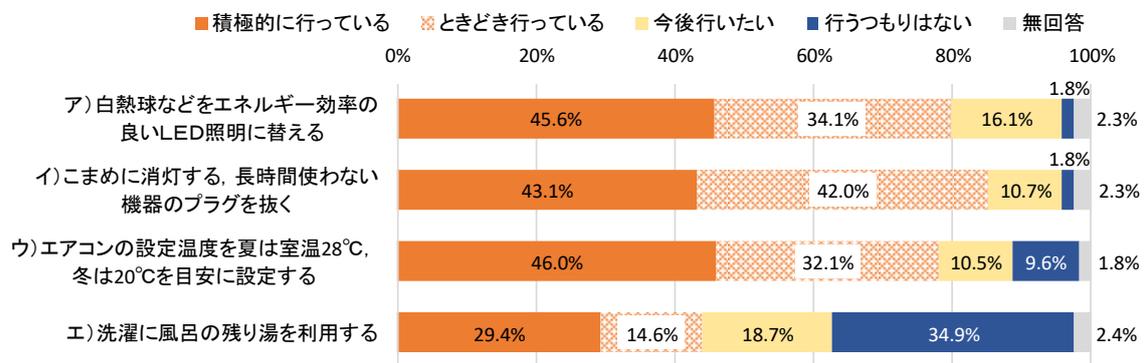
問6 あなたの環境に配慮した行動への取組状況を教えてください。(○はそれぞれ1つ)

○住宅や機器の所有状況に関係なく、市民の意識次第で実行可能な「①省エネルギーに関すること」、「②消費、資源・ごみに関すること」、「⑤地域の環境保全に関すること」について、「積極的に行っている」と「ときどき行っている」を合計した割合が高い行動は、「ごみの分別を行う」、「買い物にはエコバッグを持っていく」、「こまめに消灯する、長い時間使わない機器のプラグを抜く」である。

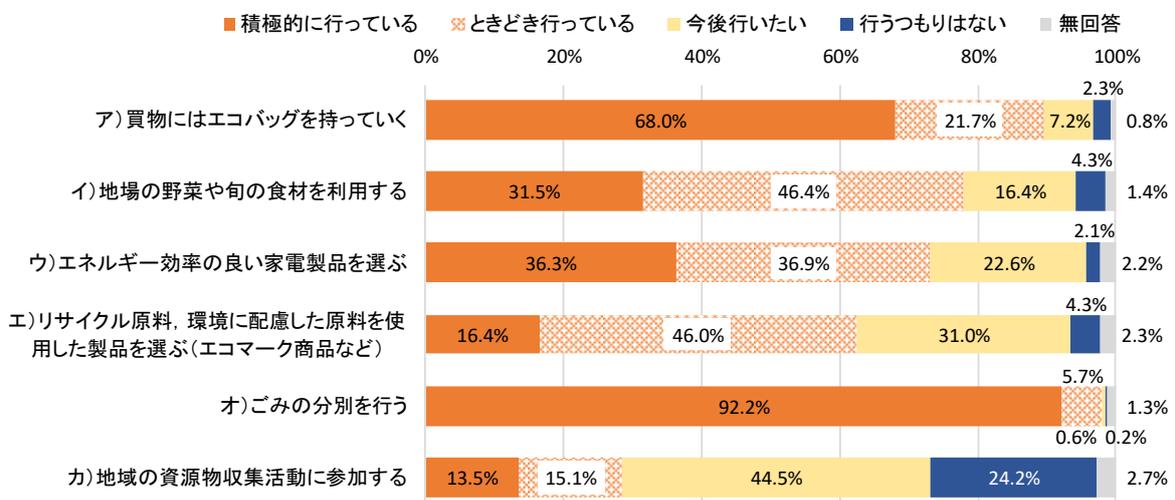
「積極的に行っている」と「ときどき行っている」を合計した割合が低い行動は、「環境教育や学習に関する活動に参加し、環境への理解を深める」、「身近な緑や水を守る活動に参加する」、「地域のごみ拾いなど環境美化活動に参加する」、「地域の資源物収集活動に参加する」等、環境学習や啓発、実践活動に関わる行動が多い。しかし、「今後行いたい」と回答した割合も高ことから、関心はあるが、参加するきっかけがない状況にあると推測される。

○所有状況により対策の実施可否が大きく変わる、「③自動車に関すること」、「④住宅に関すること」については、「窓ガラス、サッシ、ドアを断熱性・気密性の高いものにする」、「高効率給湯器を導入する」、「エコドライブを実践する」など、導入コストがかからない、もしくは比較的安い対策について「すでに行っている」の割合が高い。

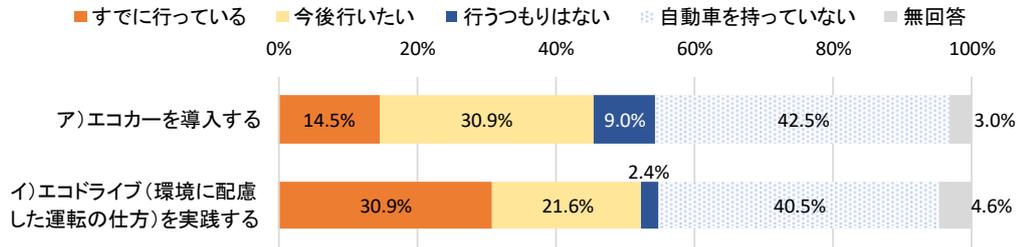
①省エネルギーに関すること



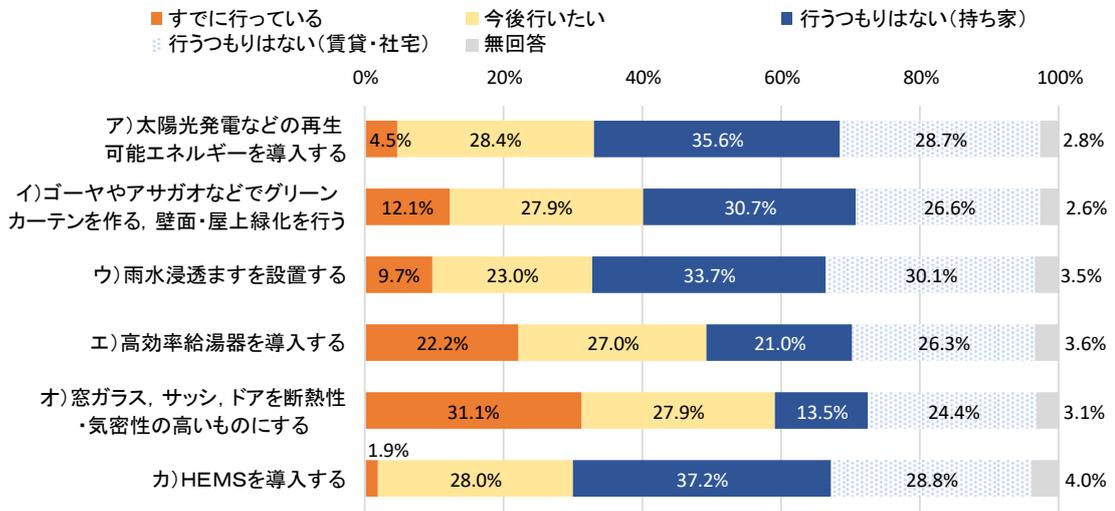
②消費、資源・ごみに関すること



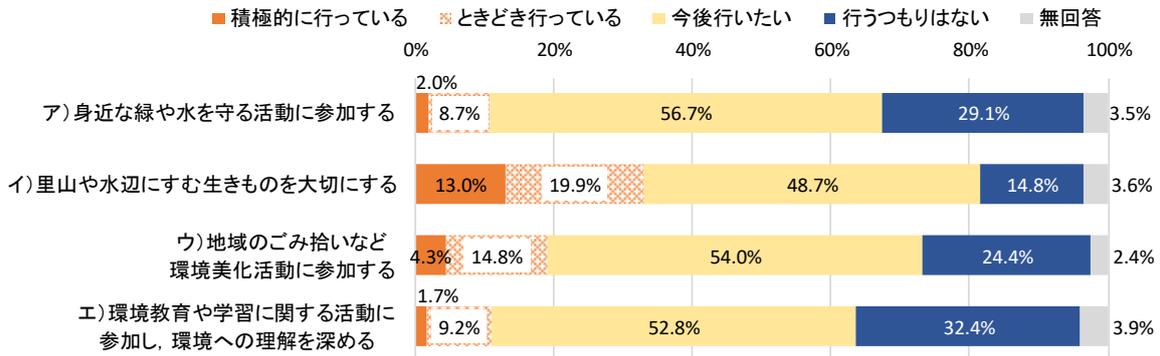
③自動車に関すること



④住宅に関すること



⑤地域の環境保全に関すること



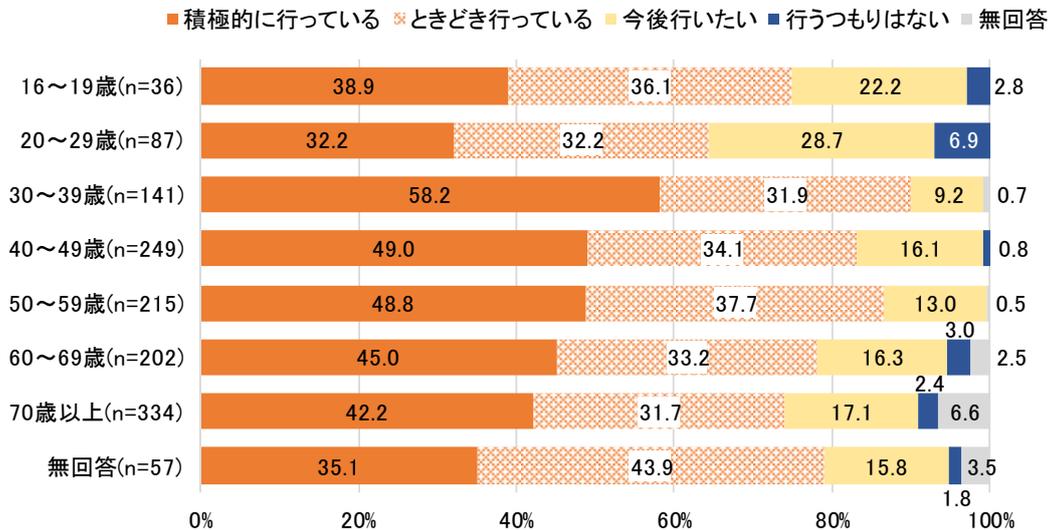
<問6 (①省エネルギー, ②消費, ⑤地域の環境保全) ×年齢層>

住宅, 自動車の所有状況に影響されない行動である, 「①省エネルギーに関すること」, 「②消費, 資源・ごみに関すること」, 「⑤地域の環境保全に関すること」について, 年齢層別に集計した。

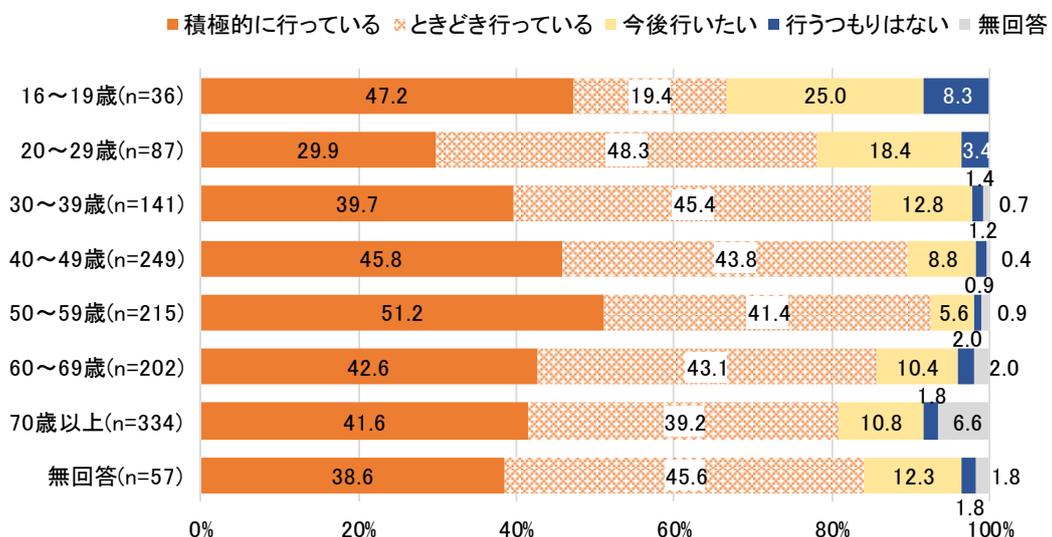
①省エネルギーに関すること

- 「ア) 白熱球などをエネルギー効率の良いLED照明に替える」を「積極的に行っている」と回答した割合は, 30代が特に高い。
- 「ウ) エアコンの設定温度を夏は室温 28℃, 冬は 20℃を目安に設定する」は, 20代以上の年齢層において, 年齢層が高くなるにつれ, 「積極的に行っている」割合が高くなる。
- 「イ) こまめに消灯する, 長時間使わない機器のプラグを抜く」, 「エ) 洗濯に風呂の残り湯を利用する」を「積極的に行っている」割合は, 50代が他の年齢層よりやや高い。

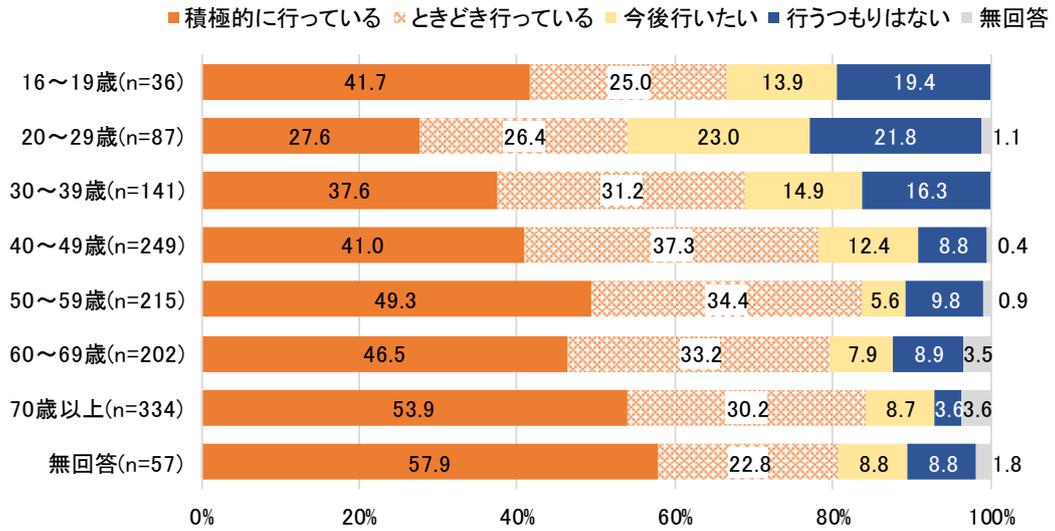
ア) 白熱球などをエネルギー効率の良いLED照明に替える



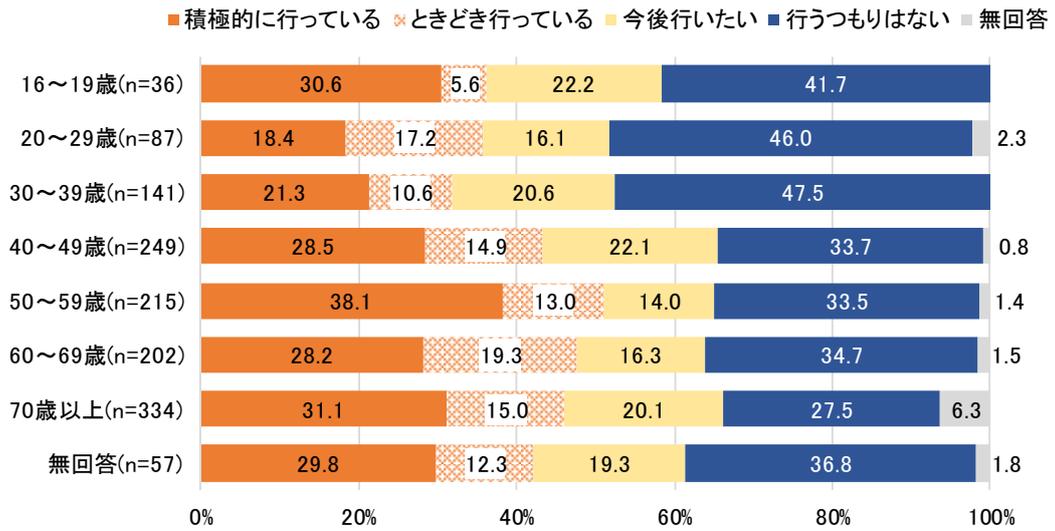
イ) こまめに消灯する, 長時間使わない機器のプラグを抜く



ウ) エアコンの設定温度を夏は室温28℃、冬は20℃を目安に設定する



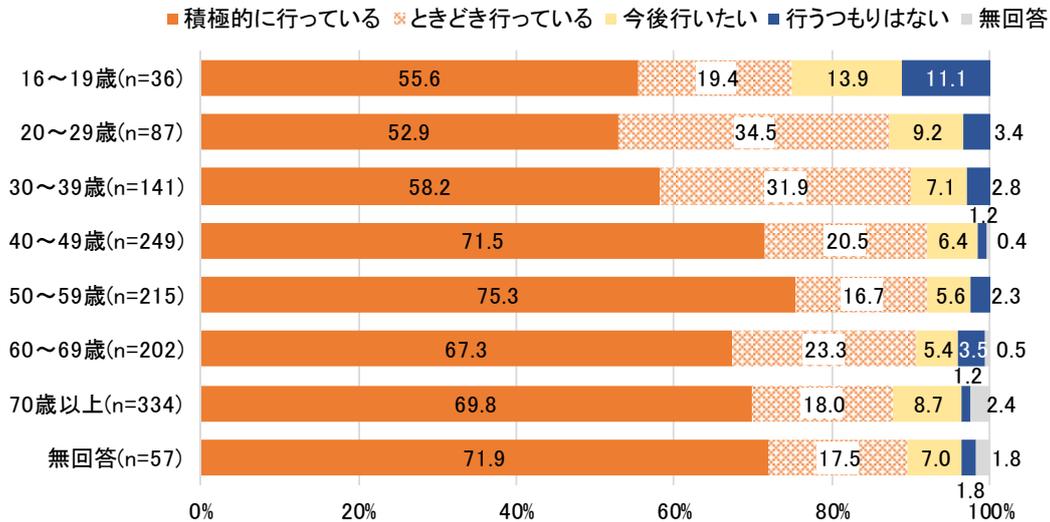
エ) 洗濯に風呂の残り湯を利用する



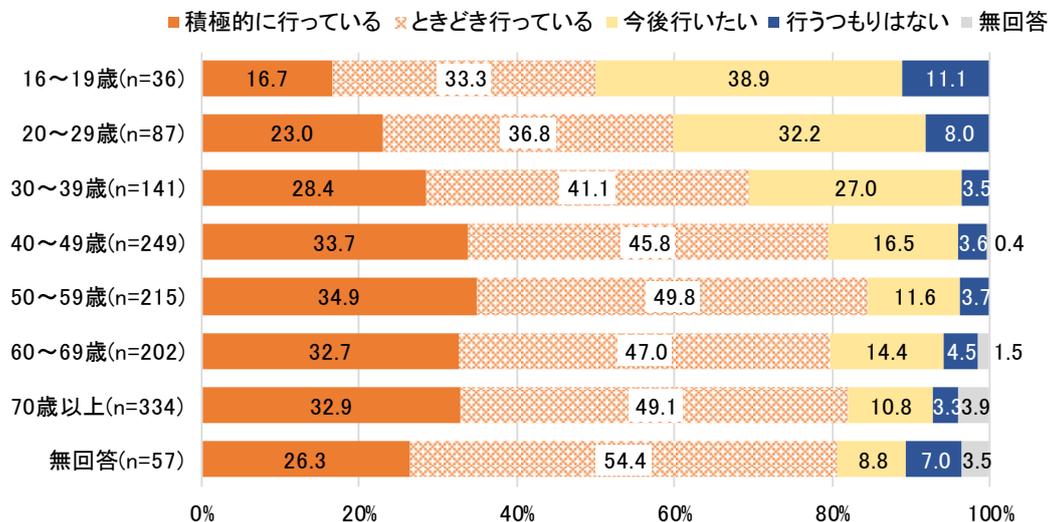
②消費、資源・ごみに関すること

- 「ア）買い物にエコバッグを持っていく」、「イ）地場の野菜や旬の食材を利用する」を「積極的に行っている」割合は、50代、40代、60代の順に高い。
- 「ウ）エネルギー効率の良い家電を選ぶ」を「積極的に行っている」割合は、30代～60代が他の年齢層より高い。
- 「エ）リサイクル原料、環境に配慮した原料を使用した製品を選ぶ（エコマーク商品など）」を「積極的に行っている」割合は、20代以上の年齢層において、年齢層が高くなるにつれ、やや高くなる傾向が見られる。
- 「オ）ごみの分別を行う」を「積極的に行っている」割合は、どの年齢層も他の行動に比べて総じて高く、「カ）地域の資源物収集活動に参加する」はどの年齢層も総じて低いが、年齢層による大きな差は見られない。

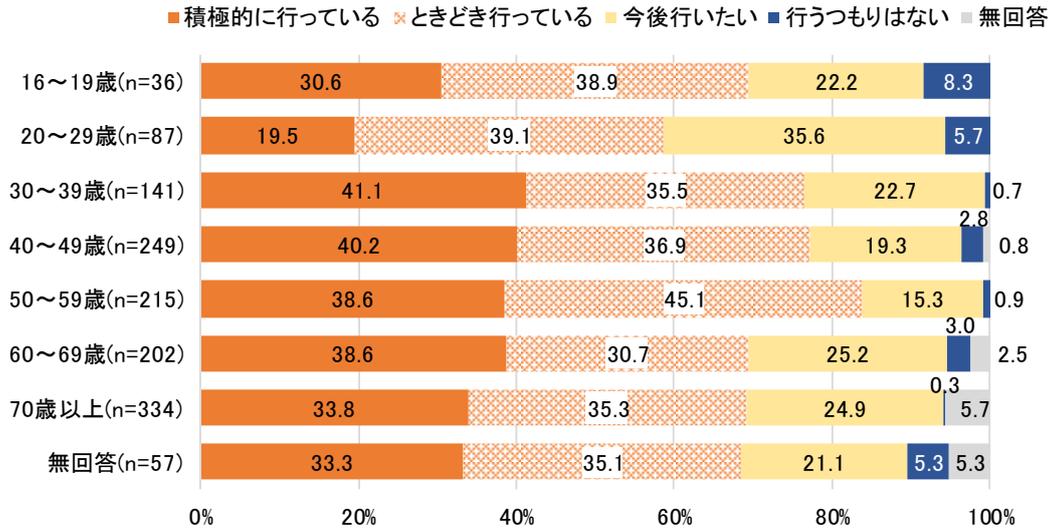
ア) 買物にはエコバッグを持っていく



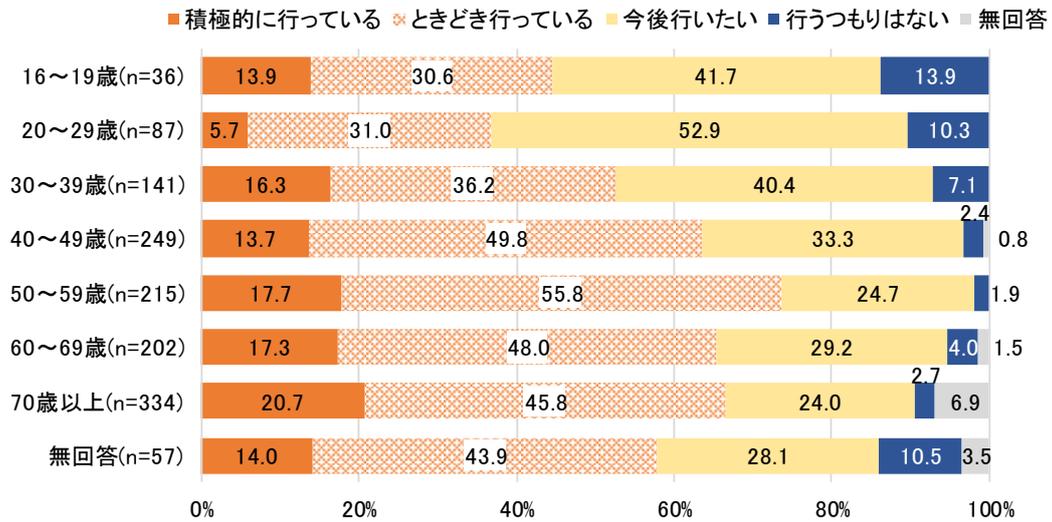
イ) 地場の野菜や旬の食材を利用する



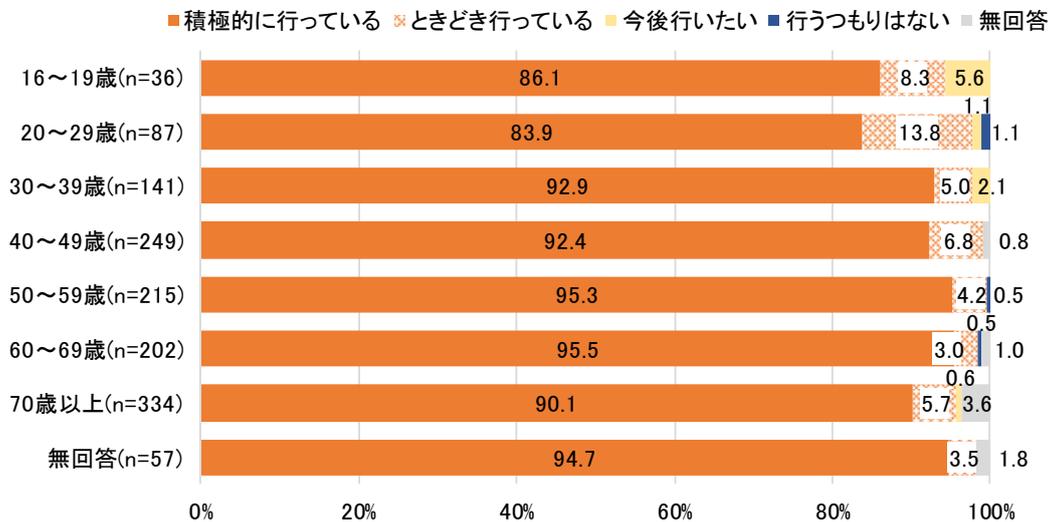
ウ) エネルギー効率の良い家電製品を選ぶ



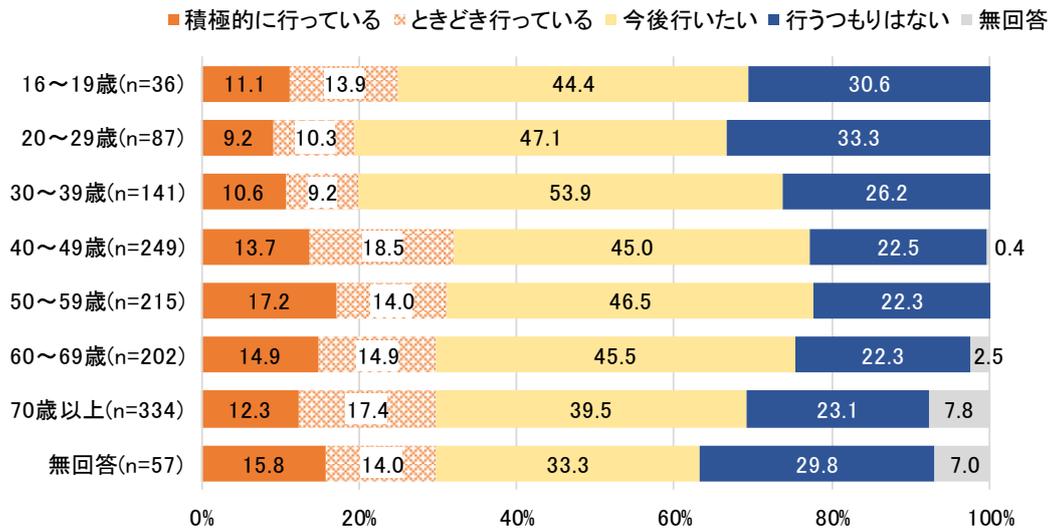
エ) リサイクル原料、環境に配慮した原料を使用した製品を選ぶ(エコマーク商品など)



オ) ごみの分別を行う



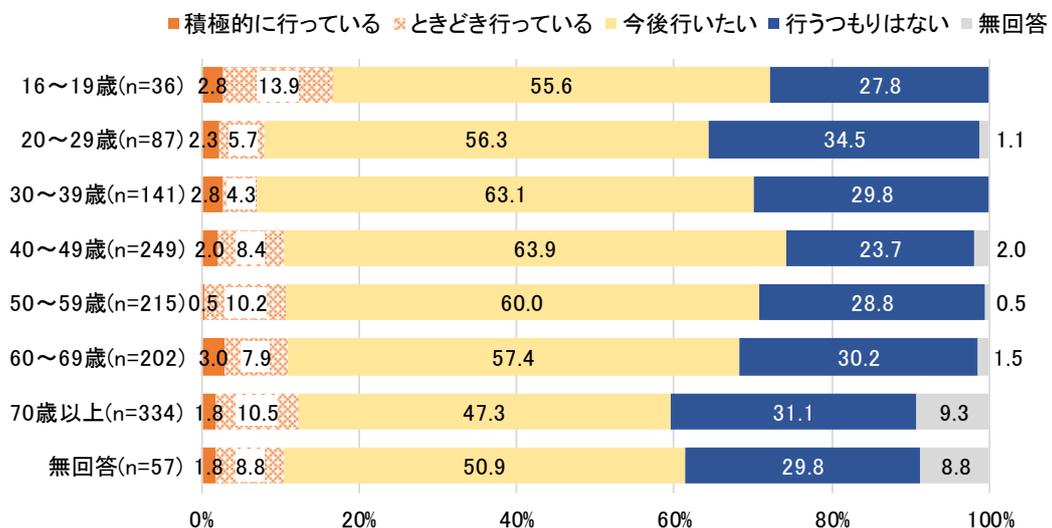
カ) 地域の資源物収集活動に参加する



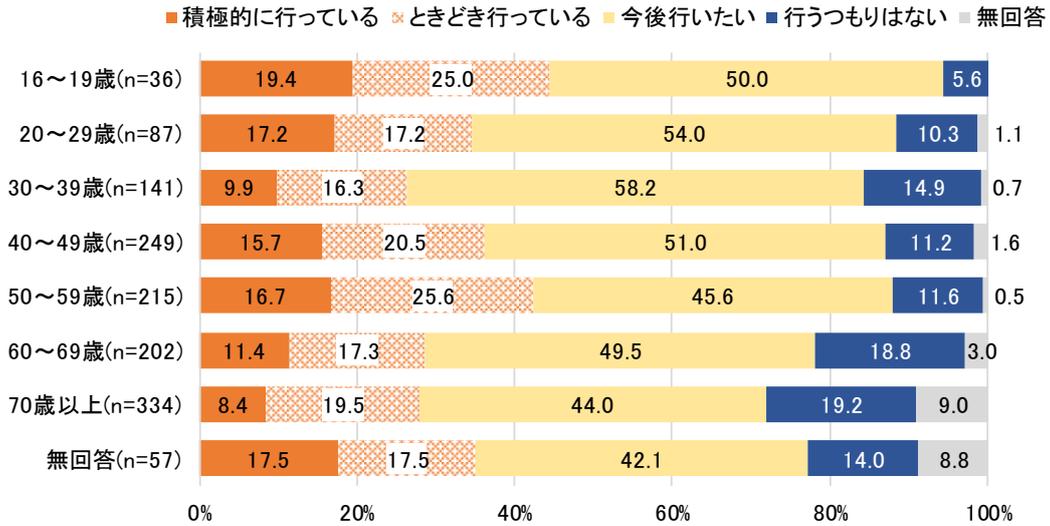
⑤地域の環境保全に関すること

- 「ア) 身近な緑や水を守る活動に参加する」及び「エ) 環境教育や学習に関する活動に参加し、環境への理解を深める」は、10代を除いた、20代～70歳以上の各年齢層において、大きな差は生じていない。
- 「イ) 里山や水辺にすむ生きものを大切にする」は、「積極的に行っている」と「ときどき行っている」の割合の合計が、10代、50代において4割を超え、次いで20代、40代の割合が高い。
- 「ウ) 地域のごみ拾いなど環境美化活動に参加する」は、「積極的に行っている」と「ときどき行っている」の割合の合計が、20代・30代において、他の年齢層より低い。

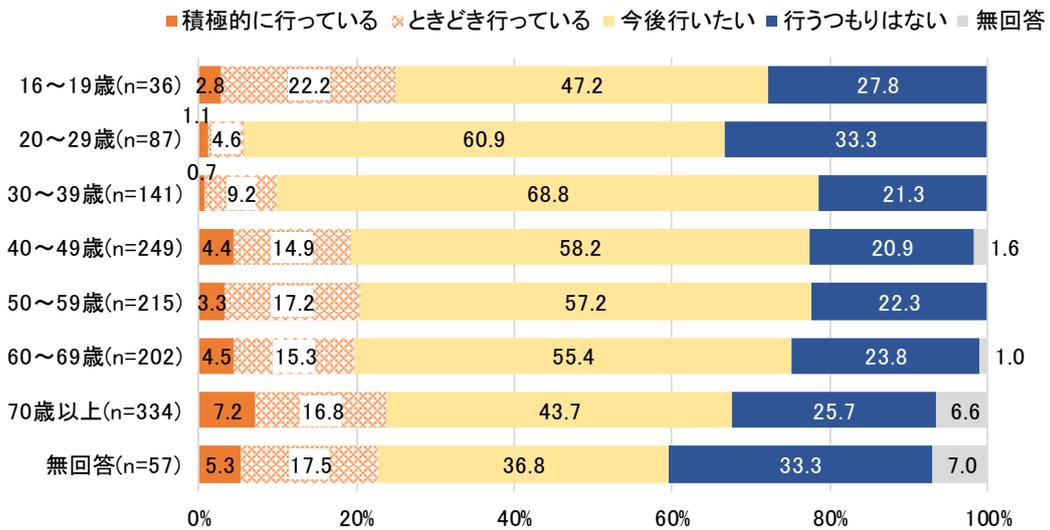
ア) 身近な緑や水を守る活動に参加する



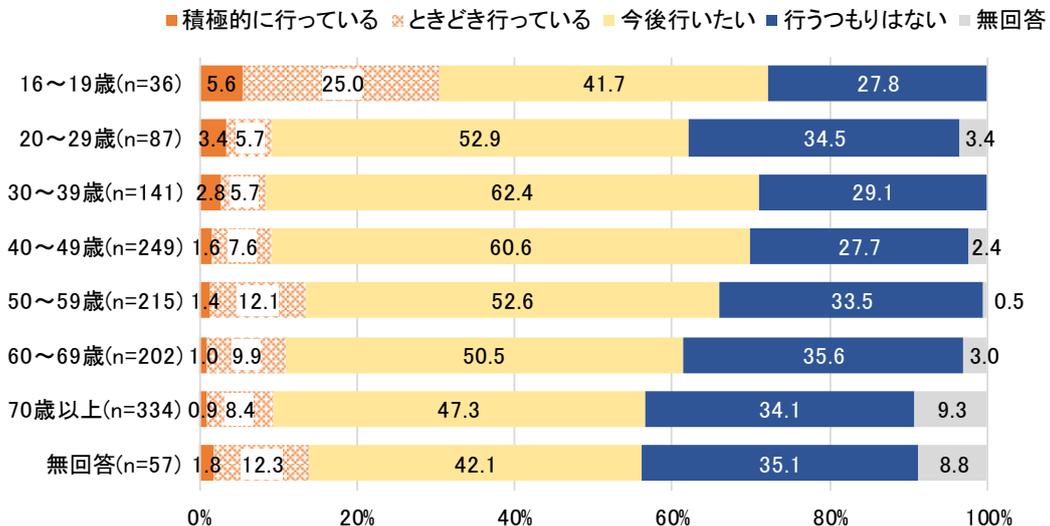
イ) 里山や水辺にすむ生きものを大切にする



ウ) 地域のごみ拾いなど環境美化活動に参加する



エ) 環境教育や学習に関する活動に参加し、環境への理解を深める



<問6と過去の類似調査との比較>

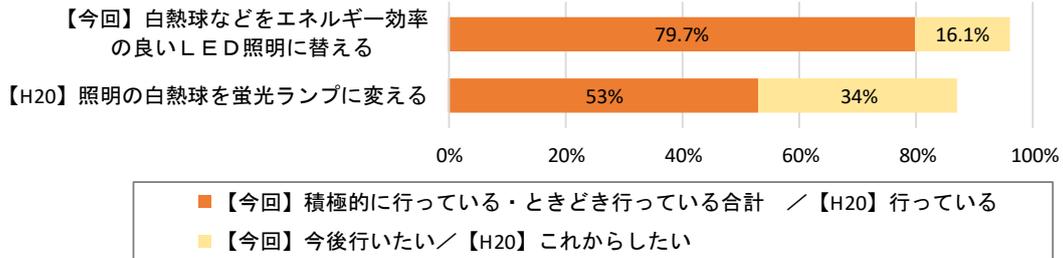
平成26年度に実施した「調布市の環境に関する市民アンケート調査」(H26年度調査)及び平成20年度に実施した「調布市地球温暖化防止意識調査(市民アンケート)」(H20年度調査)における類似設問の中から、問6と比較可能な設問項目(下表参照)を対象に、行動の実施状況の推移を分析した。

今回調査の設問項目		過去の類似調査における対照設問 (●:あり, -:なし)	
		H26年度調査	H20年度調査
(1) 省エネルギー に関すること	ア) 白熱球などをエネルギー効率の良いLED照明に替える	-	●
	イ) こまめに消灯する, 長時間使わない機器のプラグを抜く	●	●
	ウ) エアコンの設定温度を夏は室温28℃, 冬は20℃を目安に設定する	●	●
	エ) 洗濯に風呂の残り湯を利用する	●	●
(2) 消費, 資源・ ごみに関する こと	ア) 買物にはエコバッグを持っていく	●	●
	イ) 地場の野菜や旬の食材を利用する	-	●
	ウ) エネルギー効率の良い家電製品を選ぶ	-	●
	エ) リサイクル原料, 環境に配慮した原料を使用した製品を選ぶ(エコマーク商品など)	●	●
	オ) ごみの分別を行う	●	-
	カ) 地域の資源物収集活動に参加する	●	-
(3) 自動車に関する こと	ア) エコカー(ハイブリッド車, クリーンディーゼル車, 電気自動車, 天然ガス車, プラグインハイブリッド車, 燃料電池車など)を導入する	-	●
	イ) エコドライブ(環境に配慮した運転の仕方)を実践する	●	●
(4) 住宅に関する こと	ア) 太陽光発電などの再生可能エネルギーを導入する	●	●
	イ) ゴーヤやアサガオなどでグリーンカーテンを作る, 壁面・屋上緑化を行う	●	●
	ウ) 雨水浸透ます(雨水を地下に効率的に浸透させるための「ます」)を設置する	-	-
	エ) 高効率給湯器(エコジョーズ, エネファーム, エコウィル, エコキュートなど)を導入する	-	●
	オ) 窓ガラス, サッシ, ドアを断熱性・気密性の高いものにする	-	-
	カ) HEMS(家庭の省エネルギーを目的としたエネルギー需要を管理するシステム)を導入する	-	-
(5) 地域の環境保 全に関するこ と	ア) 身近な緑や水を守る活動に参加する	●	●
	イ) 里山や水辺にすむ生きものを大切にする	-	-
	ウ) 地域のごみ拾いなど環境美化活動に参加する	●	●
	エ) 環境教育や学習に関する活動に参加し, 環境への理解を深める	●	●

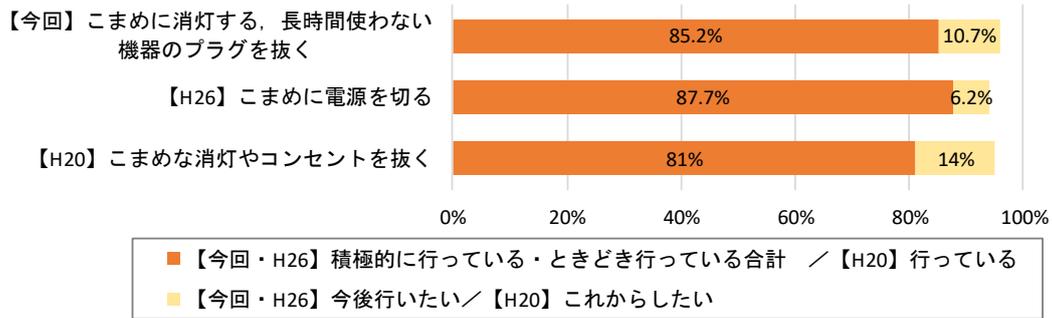
①省エネルギーに関すること

- 「白熱球の切り替え」,「こまめな消灯」については, H20 年度調査時より, 実施率(行っている割合)が増加している。
- 「エアコンの設定温度」については, 実施率が低下傾向にある。
- 「風呂の残り湯の利用」については, H20 年度調査と今回調査で実施率はほとんど変わっていない。

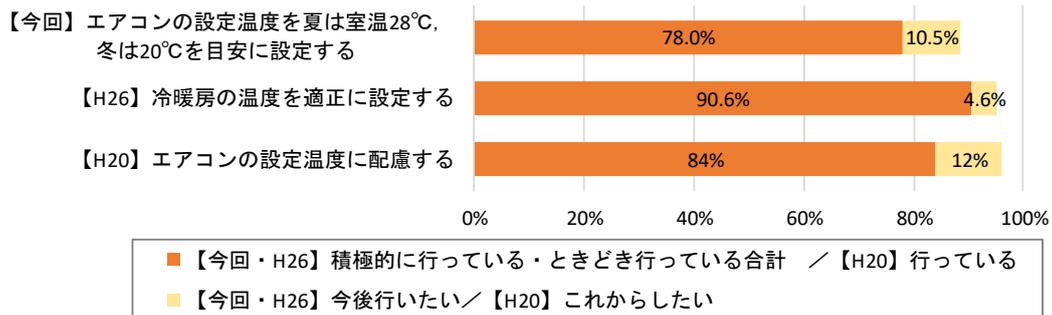
白熱球の切り替え



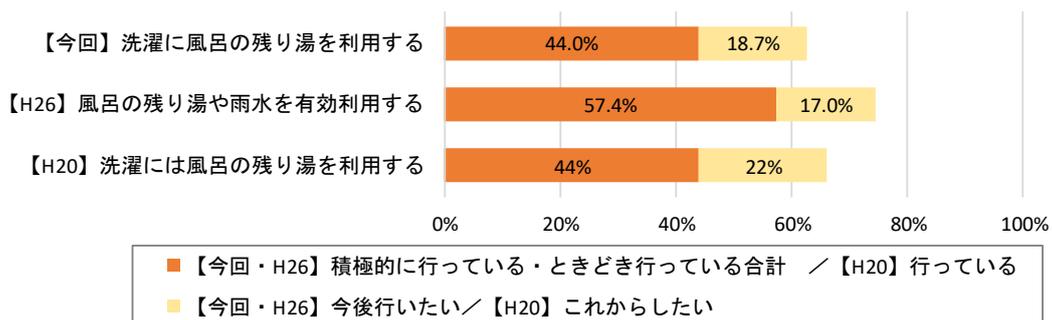
こまめな消灯等



エアコンの設定温度



風呂の残り湯の利用

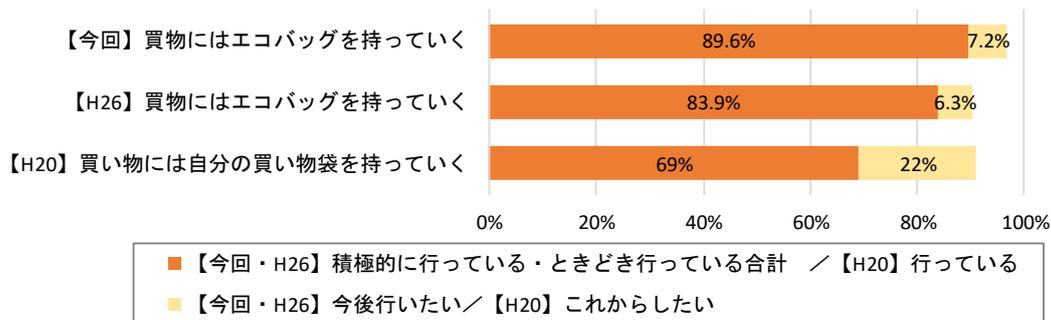


②消費，資源・ごみに関すること

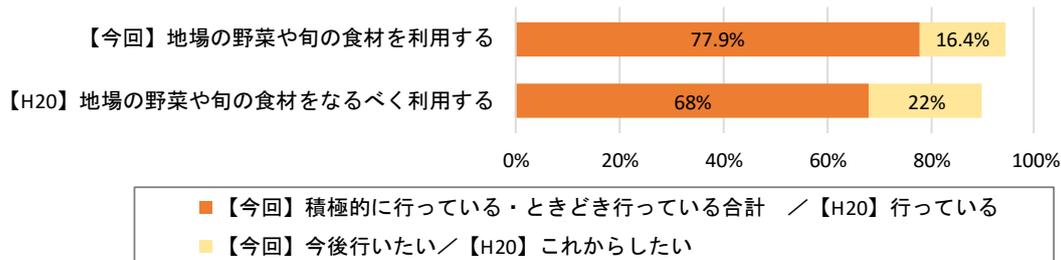
○消費，資源・ごみに関する行動は、「地域の資源物収集活動への参加」を除き，実施率は上昇傾向にある。

○特に，「エネルギー効率の良い家電製品の選択」，「環境配慮製品の選択」の実施率は，H20年度調査と今回調査を比較すると，1.5倍前後上昇している。

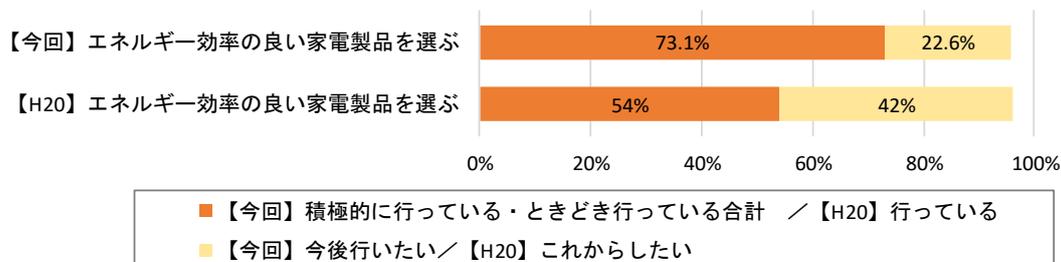
エコバッグ・買い物袋持参



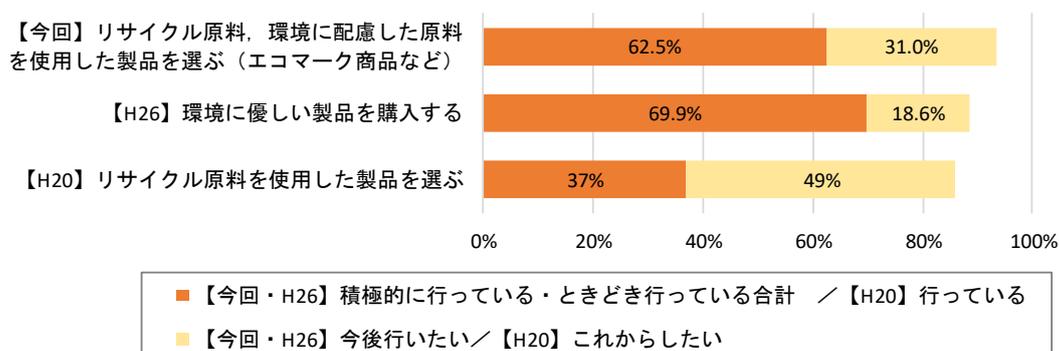
地場の野菜や旬の食材の利用

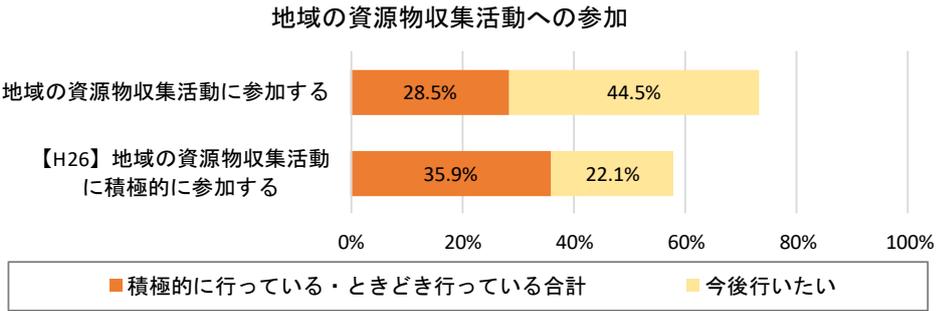
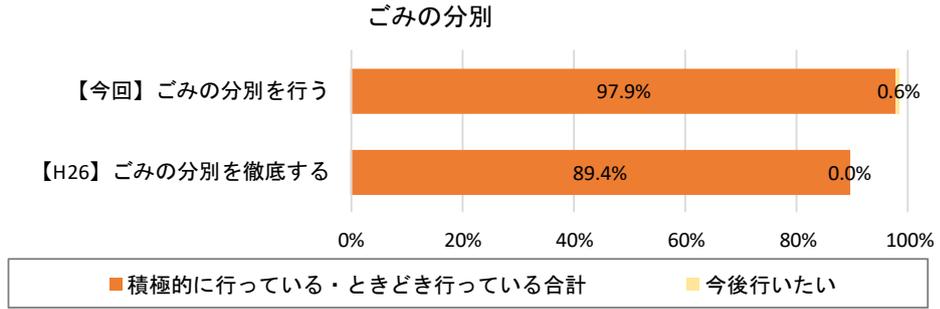


エネルギー効率の良い家電製品の選択



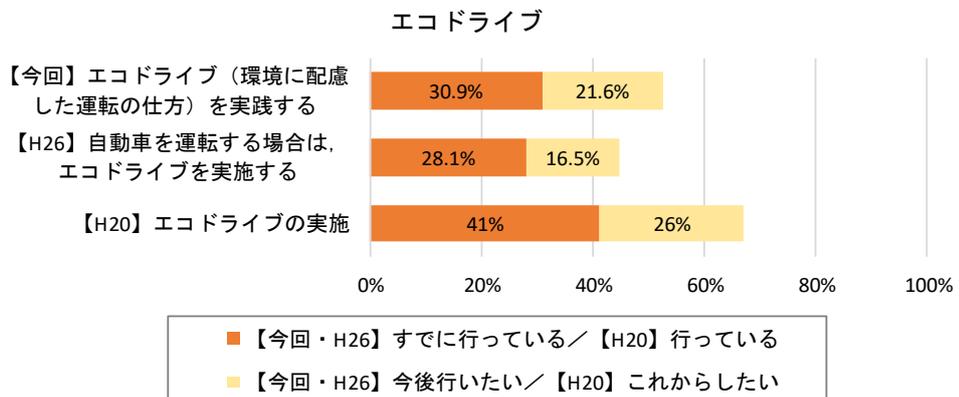
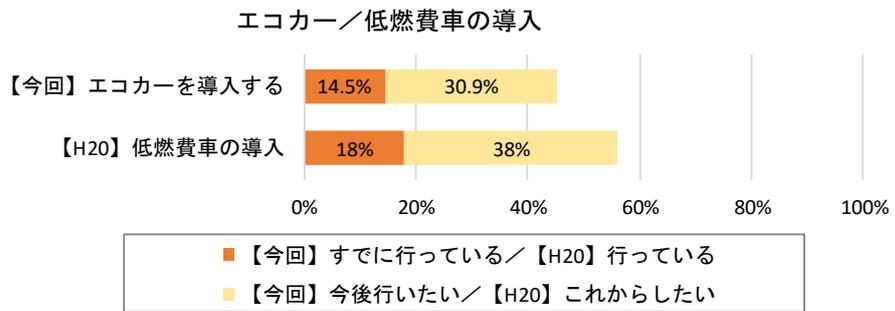
環境配慮製品の選択





③自動車に関すること

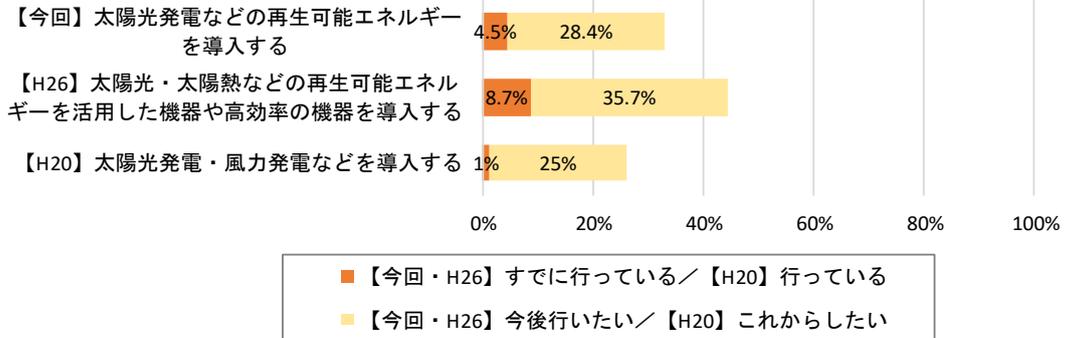
- 「エコカー／低燃費車の導入」については、実施率、今後の実施意向とも若干低下している。
- 「エコドライブの実施」については、H20年度調査に対し、H26年度調査、今回調査とも実施率が低くなっている。



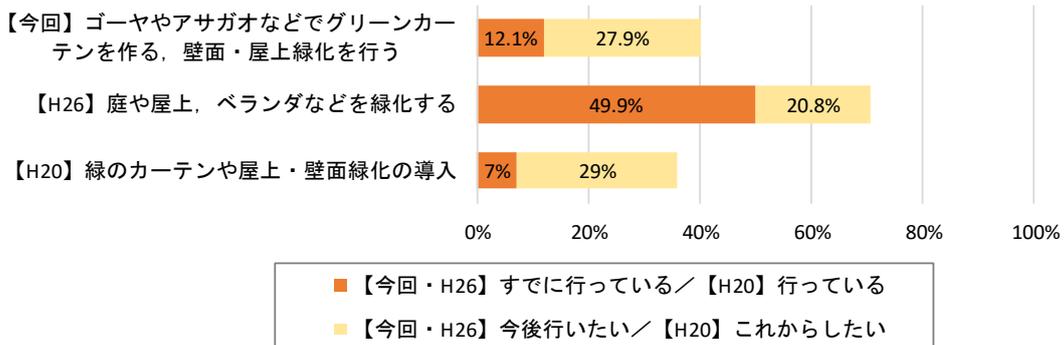
④住宅に関すること

○設問内容がほぼ同様の今回調査と H20 年度調査を比較すると、「再生可能エネルギーの導入」、「グリーンカーテン、壁面・屋上緑化」、「高効率給湯器の導入」とも、実施率は向上している。

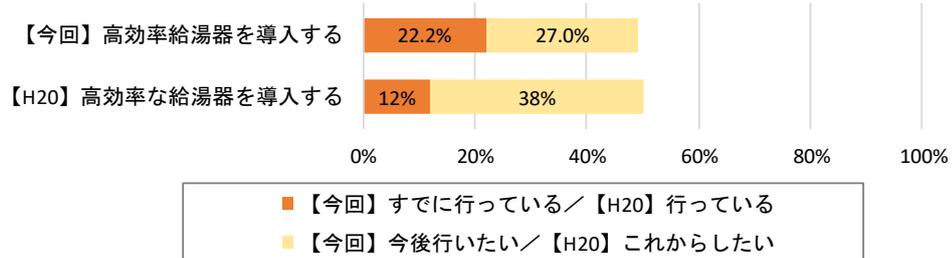
再生可能エネルギーの導入



グリーンカーテン、壁面・屋上緑化等



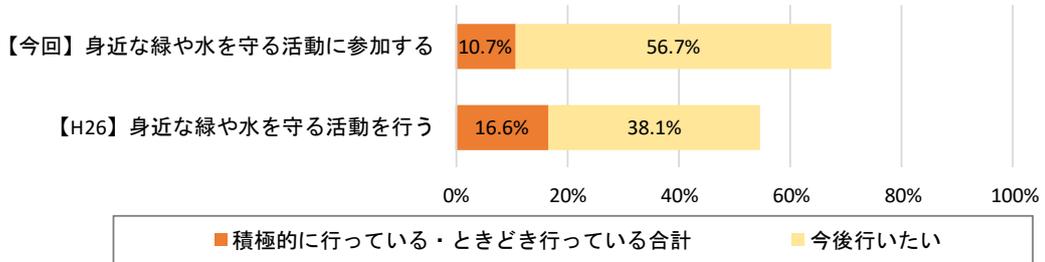
高効率給湯器の導入



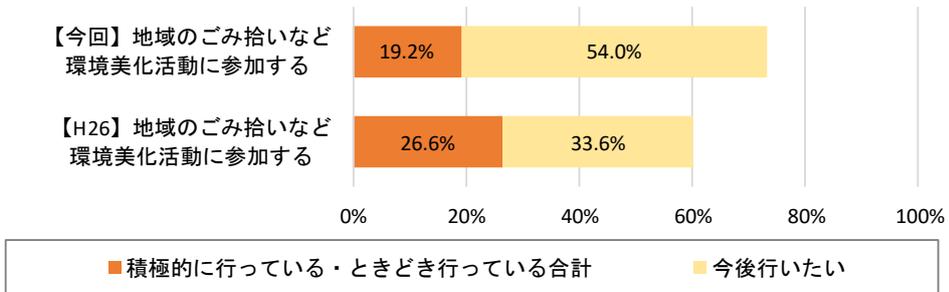
⑤地域の環境保全に関すること

○「身近な緑や水を守る活動への参加」,「環境美化活動への参加」,「環境教育や学習に関する活動への参加」とも, H26 年度調査時より実施率は低下しているが, 今後の実施意向は上昇している。

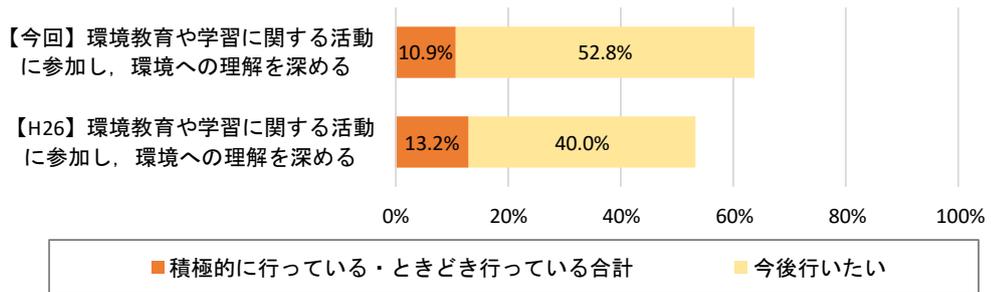
身近な緑や水を守る活動への参加



環境美化活動への参加



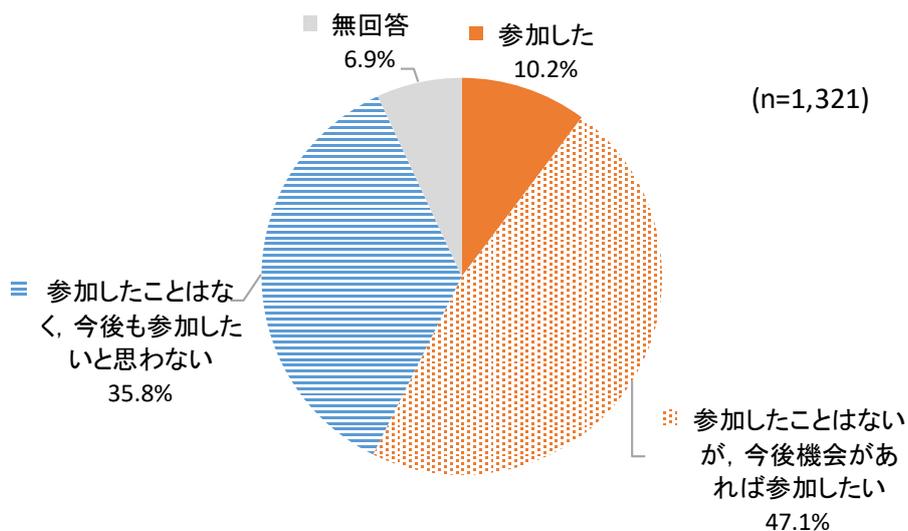
環境教育や学習に関する活動への参加



(4) 市民協働の促進に向けた課題と市民の意向

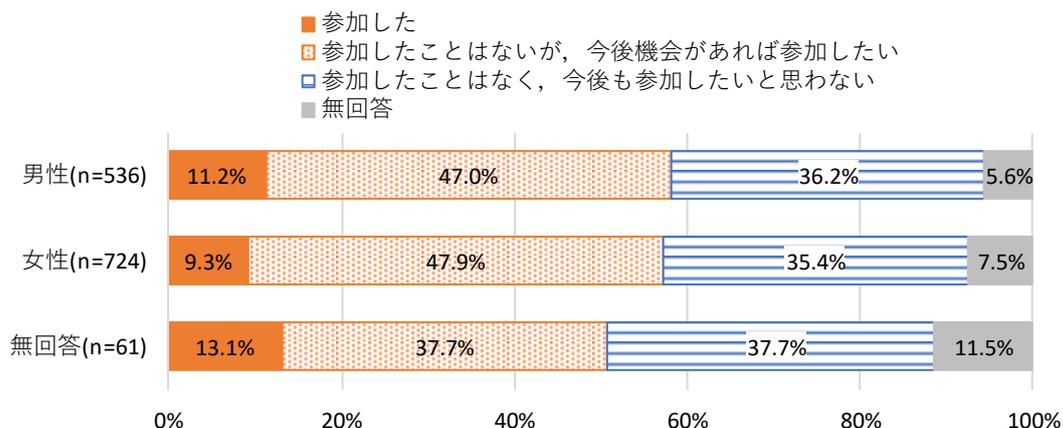
問7 あなたは、ここ1年間に、地域の環境活動に参加したことがありますか。(〇は1つ)

○ここ1年間に、地域の環境活動に「参加した」回答者は、約1割である。
 ○約半数が「参加したことはないが、今後機会があれば参加したい」としている一方で、3割強は「参加したことはなく、今後も参加したいと思わない」と考えている。



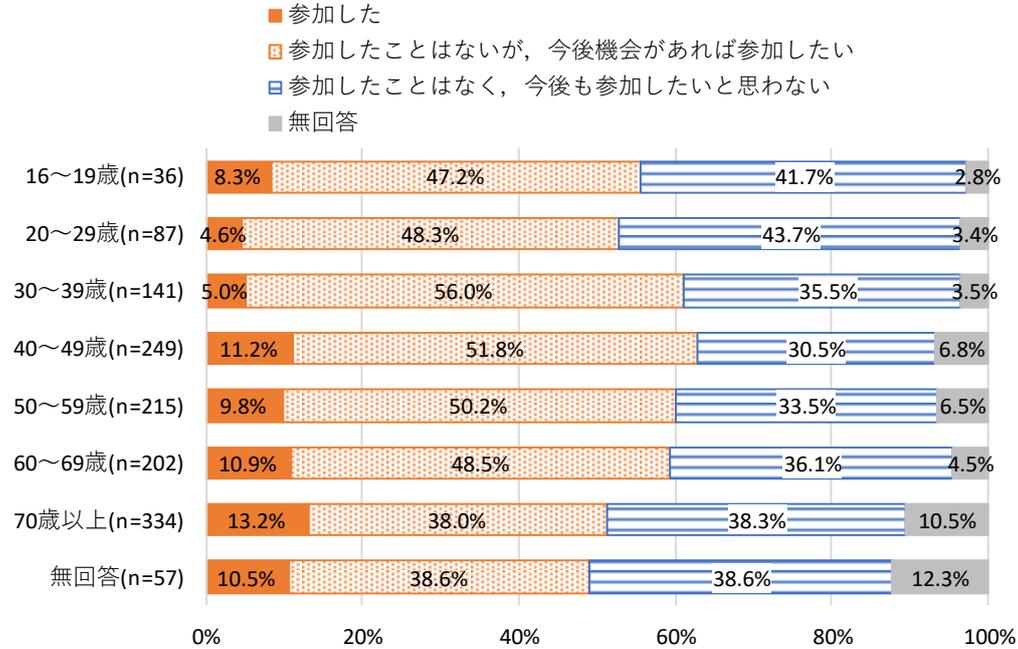
<問7 × 性別>

○男女別で、地域の環境活動への参加状況・意向に対する差は見られない。



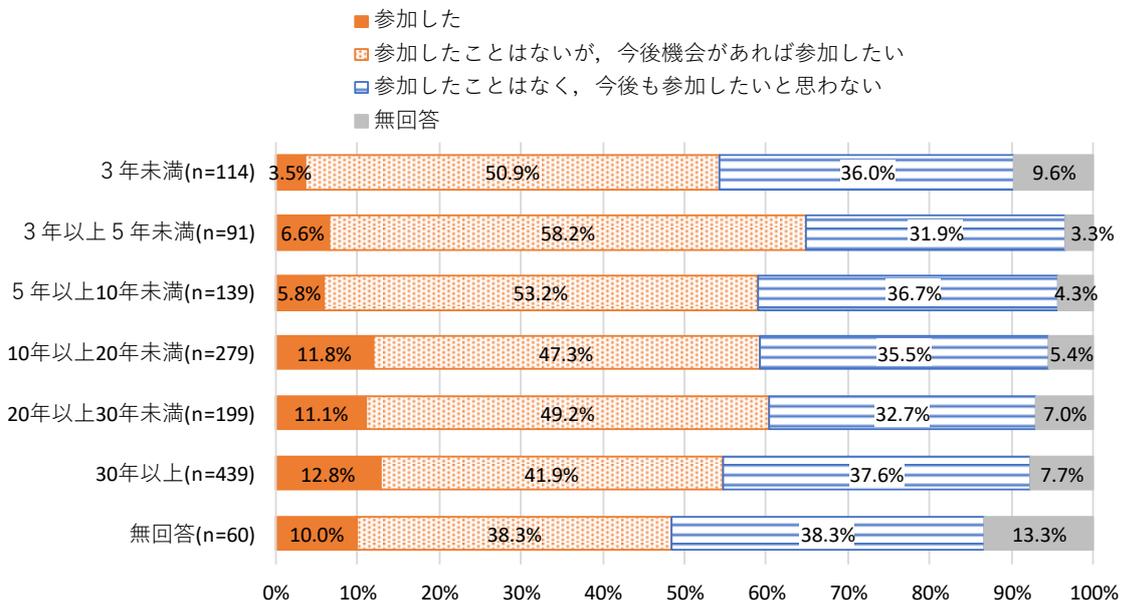
<問7 × 年齢層>

○30代以下の年齢層より、40代以上の年齢層の方が「参加した」と回答した割合がやや高い。
 ○30代～50代は、「参加したことはないが、今後機会があれば参加したい」の割合が5割を超えており、参加への関心に対する関心が他の年齢層よりやや高い。
 ○10代、20代については、「参加したことはなく、今後も参加したいと思わない」の割合が4割を超えている。



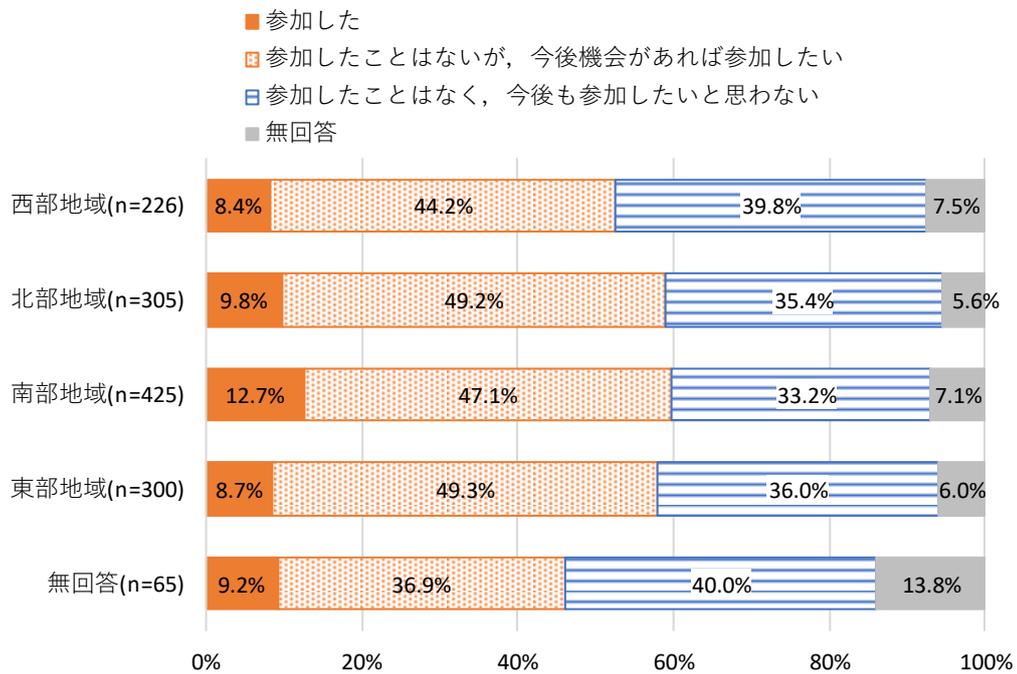
<問7 × 居住期間>

○「参加したことがある」と回答した割合は、居住年数が10年を超える層の方が、10年未満の層より高い。
 ○「参加したことはないが、今後機会があれば参加したい」と回答した割合は、「3年以上5年未満」、「5年以上10年未満」において高い。



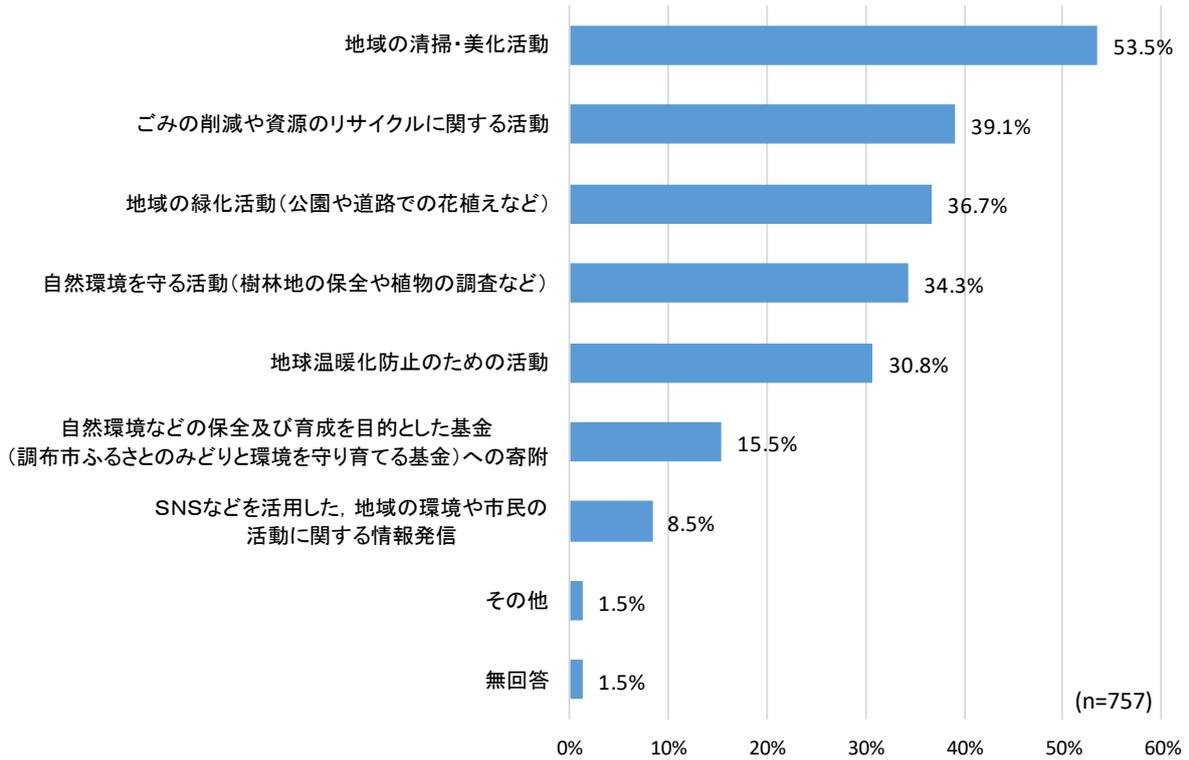
<問7 × お住まいの地域>

○「参加した」と回答した割合は、南部地域が他地域よりやや高い。



問8 問7で「1 参加した」,「2 参加したことはないが、今後機会があれば参加したい」と答えた方に伺います。どのような活動に参加しましたか、もしくは参加してみたいですか。(〇はいくつでも)

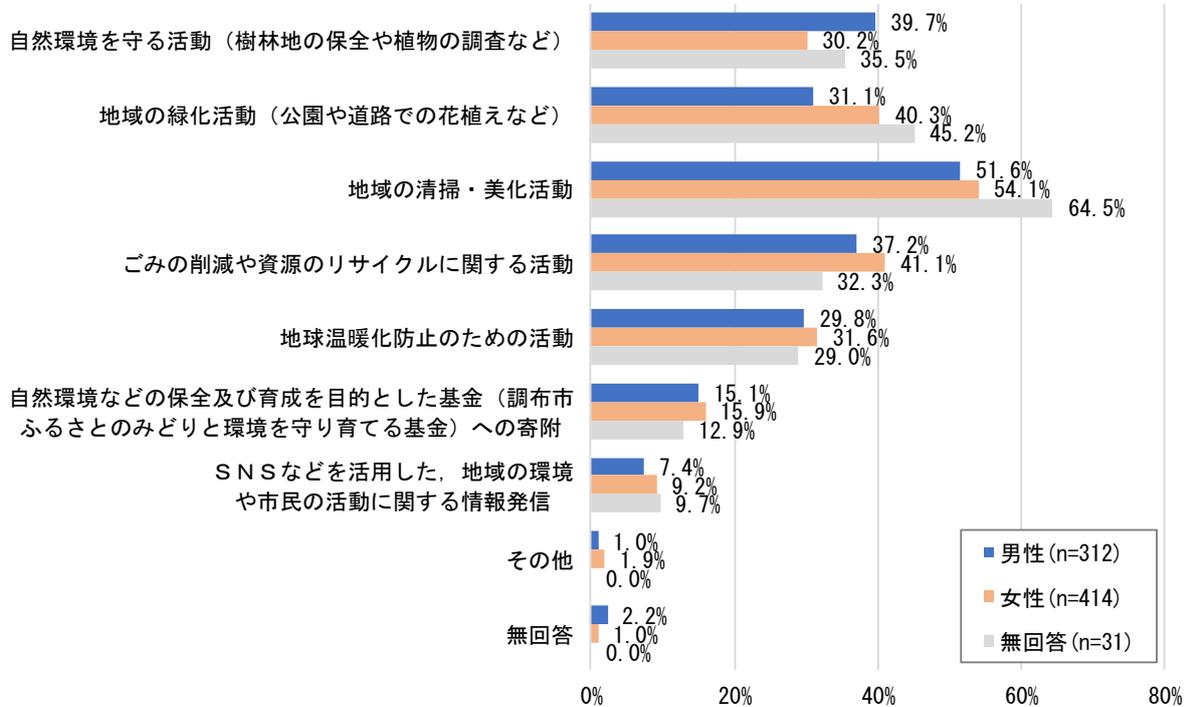
〇地域の環境活動に関心のある層が、参加した、または参加してみたい活動は、「地域の清掃・美化」(53.5%)が最も多く、次いで「ごみの削減や資源のリサイクルに関する活動」(39.1%),「地域の緑化活動(公園や道路での花植えなど)」(36.7%),「自然を守る活動(樹林地の保全や植物の調査など)」(34.3%)が多い。



その他	※原則として原文のまま掲載している
● バイオマス発電事業に携わっている。	● 全人工膝関節置換術, 血圧, 腫真珠性中耳炎, 耳がきこえが悪い
● 街路樹の下の雑草の除草	● 病氣中です
● フードロス減らす活動	● 年令的に無理
● 町内会の理事をしていた	● 行政が市民の意向を無視していると思われることのクレーム
● グループ活動	
● 老人会	

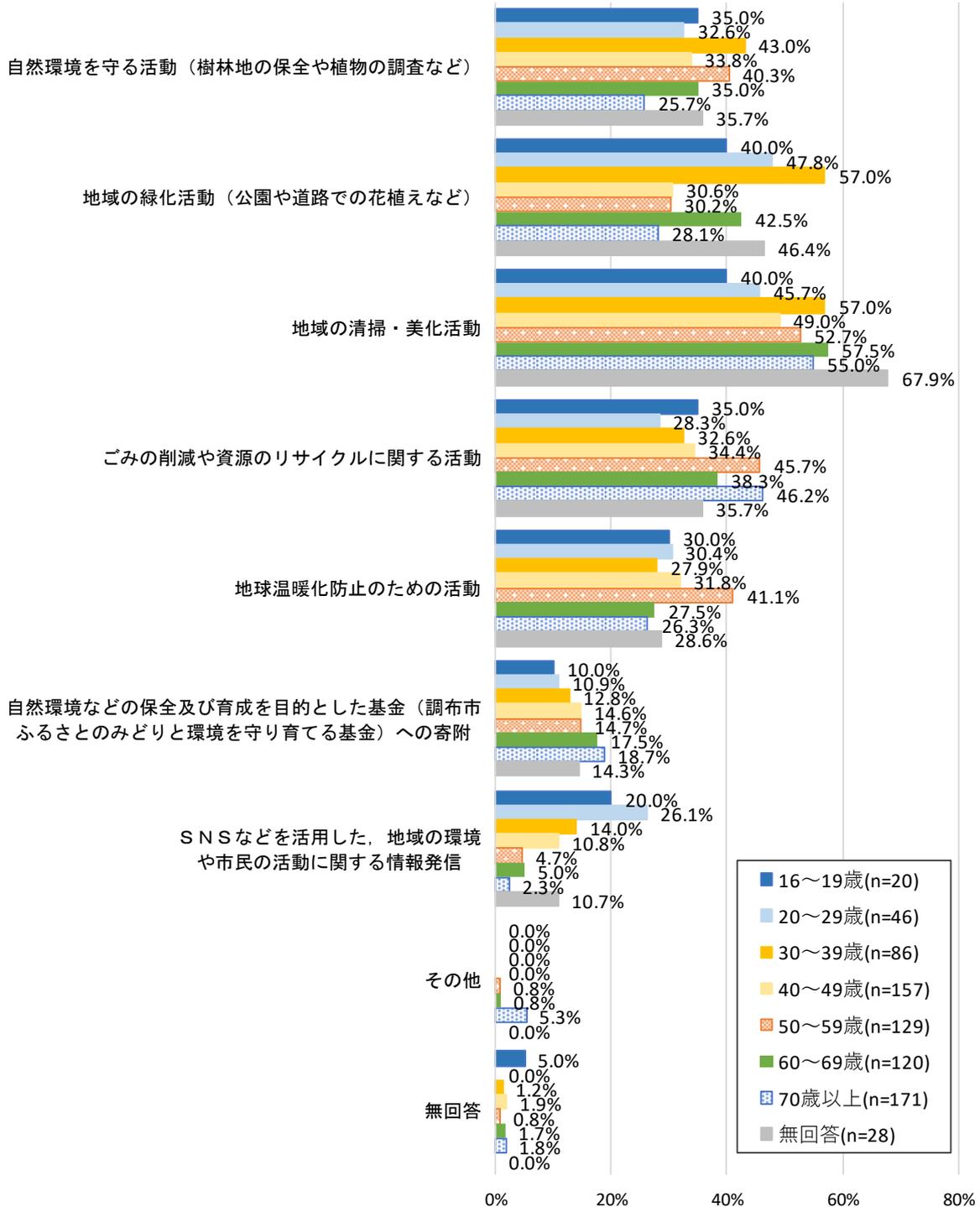
<問8×性別>

○男女別にみると、「自然環境を守る活動（樹林地の保全や植物の調査など）」を選んだ男性の割合が、女性を約10ポイント上回っている。また、「地域の緑化活動（公園や道路での花植えなど）」を選んだ女性の割合が、男性を約9ポイント上回っている。



<問8 × 年齢層>

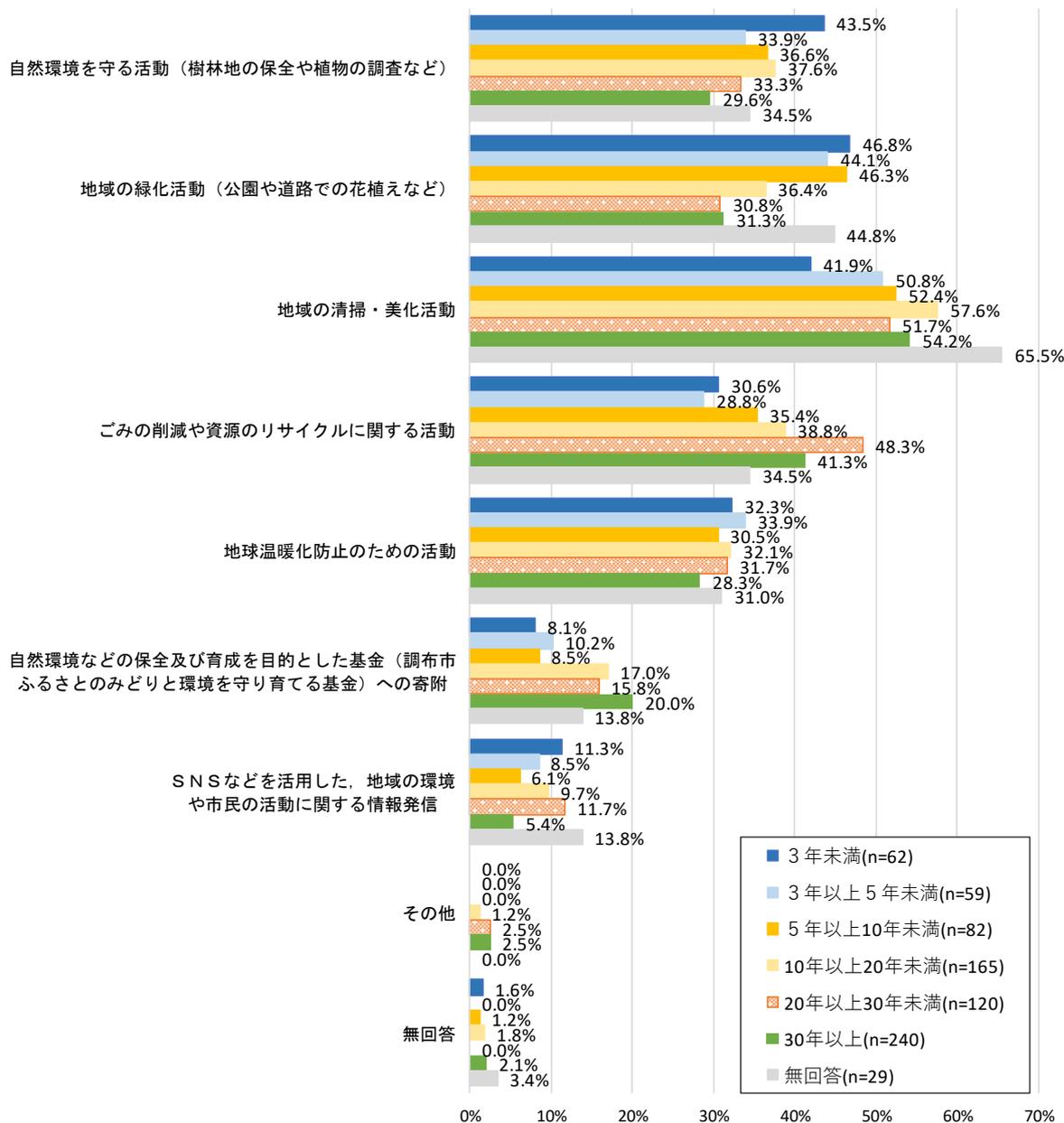
○年齢層別にみると、「地域の緑化活動（公園や道路での花植えなど）」は、20～30代の比較
 的若い年齢層が選択している。



<問8 × 居住期間>

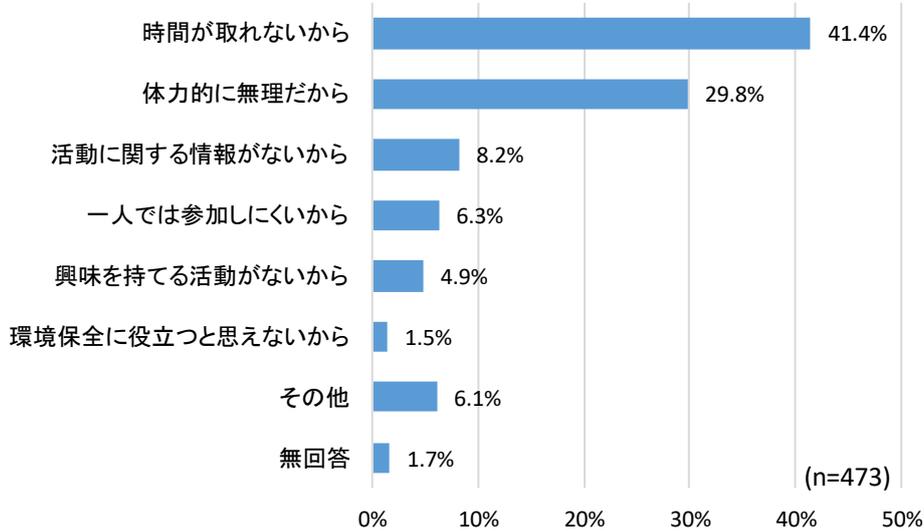
○居住期間別にみると、「地域の緑化活動（公園や道路での花植えなど）」、「自然環境を守る活動」は、居住期間が短い層の方が選択した割合が高い。これに対し、「ごみの削減やリサイクルに関する活動」、「自然環境などの保全及び育成を目的とした基金への寄附」は、居住期間が長い層の方が選択した割合が高い傾向にある。

○その他の項目については、居住期間による大きな差は見られない。



問9 問7で「3 参加したことはなく、今後も参加したいと思わない」と答えた方に伺います。
地域の環境活動に参加したいと思わない理由は何ですか。(〇は1つ)

○地域の環境活動に関心のない層が、参加したいと思わない理由は、「時間が取れないから」(41.4%)、「体力的に無理だから」(29.7%)が多い。

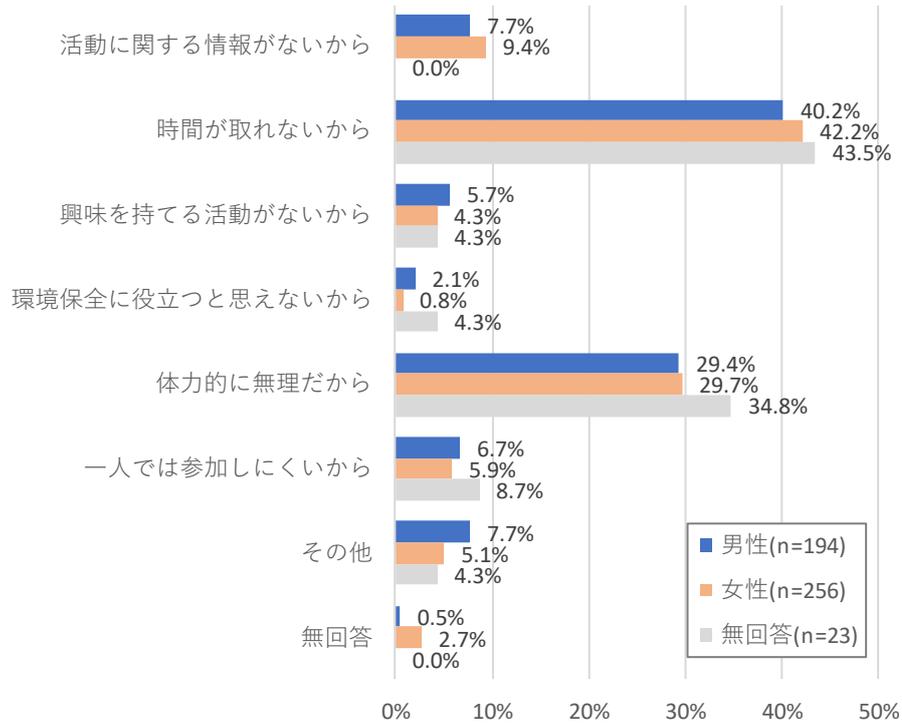


その他		※原則として原文のまま掲載している
時間が取れないから	<ul style="list-style-type: none"> ● フルで仕事をしているので休日は自分のことで精いっぱいです。(ゆっくりしたいので) ● 一年以上前に参加したが、その後時間が取れないから。 ● 単身赴任で仕事がいそがしいため ● フルで仕事、休みは病院のため ● ディーサービスのドライバーをしている為、時間が無し ● 親の介護のため時間が取り難い 	
年齢・体力・病気・障害のため	<ul style="list-style-type: none"> ● 85才なので無理です。 ● 老齢なので ● 年齢的に無理 ● 年齢令90才 ● 年令的 ● 84才で反って迷惑をかける ● 体力と時間がない(要介護5の介護をしている為) 77才 ● 体力がなくなった ● 子どもの介助がある(障がい) ● 脳梗塞を患い、体力が落ち、何事も自由にできない。 ● 参加したいと思いますが、年を取っていますので、足も悪いので関心は有っても実行は出来ない状態です 	
自分でできることをすでに実行しているから	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分自身、環境問題に出来る事はしている ● 日常生活でしてるから ● 自分でできる範囲のことをマイペースで続けたい ● 活動に参加するのではなく、出来る事を日々やっていきたい 	
必要性が感じられないから	<ul style="list-style-type: none"> ● そもそも家の周りがきれいだから。 ● 得られるものがない ● 表面的な活動に思ってしまうから ● 一部の努力では改善の見込みがないから ● 必要性を感じない ● 必要性の重用度 	
その他の理由	<ul style="list-style-type: none"> ● 面倒 ● 仲間内の集まりみたいで、「お客様」になりがちだから！ ● 一人一人が心がけ、行動し、町を汚ごさない様にする 	

その他		※原則として原文のまま掲載している
	<ul style="list-style-type: none"> ● 集合住宅に住んでおり参加しづらい ● 戸建ての時は多摩川クリーン等参加していたが、マンションに来てからは何があるがわからない ● 環境の前に人間形成に？有り（自己中心が、多過ぎる） ● 三鷹市出身なものでごめんなさい。 ● 引っ越しの予定 ● あんまり日本にいないから ● 無関心なわけではありません。 ● 興味がない 	
設問に対するご意見	<ul style="list-style-type: none"> ● なぜ○は1つないですか？理由は1つとして限らない 	

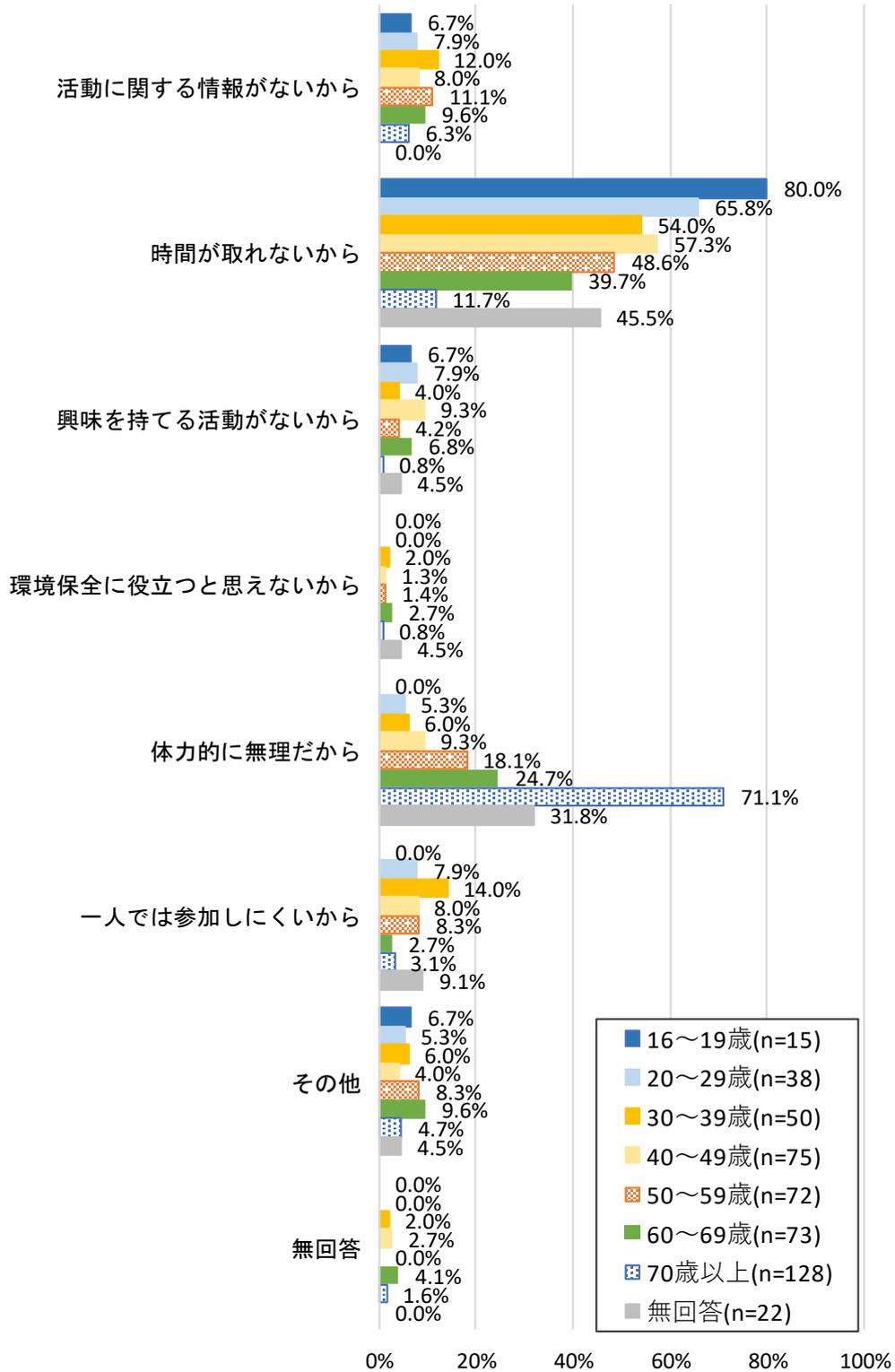
< 問9 × 性別 >

○男女別で、参加したいと思わない理由に大きな差は見られない。



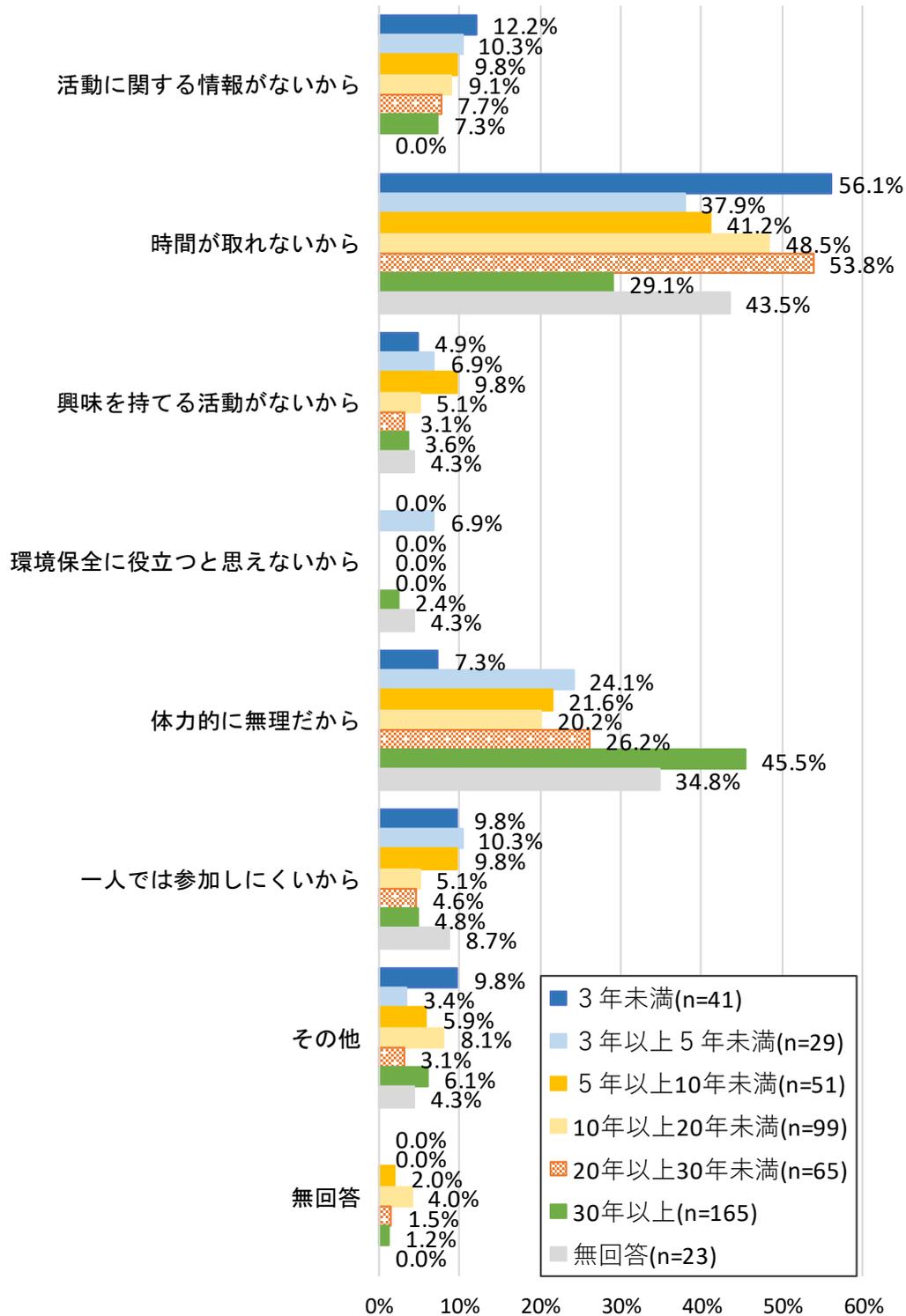
<問9 × 年齢層>

○年齢層別にみると、「時間が取れないから」を選んだ割合は若い年齢層ほど高い。
 ○「体力的に無理だから」は、年齢層が上がるにつれて選んだ割合が高くなり、70歳以上では7割を超えている。
 ○そのほかの理由については、年齢層による大きな差は見られない。



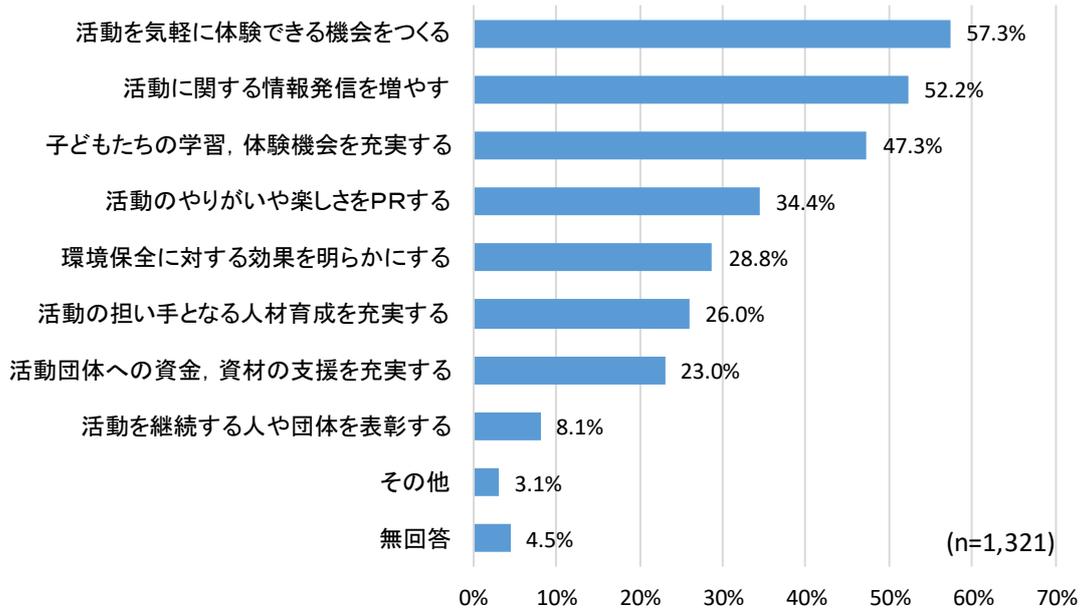
<問9 × 居住期間>

○居住期間別にみると、「体力的に無理だから」について「30年以上」の居住者が選択した割合が30年未満の層より高く、「時間が取れないから」について「30年以上」の居住者が選択した割合が30年未満の層より低い。その理由として、居住期間が長い層は、70歳以上の年齢層の割合が高いことが影響していると考えられる。



問10 すべての方に伺います。地域の環境活動や環境活動団体に参加する人を増やしていくために、どのような取組が重要だと思いますか。(〇はいくつでも)

〇地域の環境活動等への参加促進に重要だと考える取組は、「活動を気軽に体験できる機会をつくる」(57.3%)、「活動に関する情報発信を増やす」(52.2%)、「子どもたちの学習、体験機会を充実する」(47.3%)が多い。

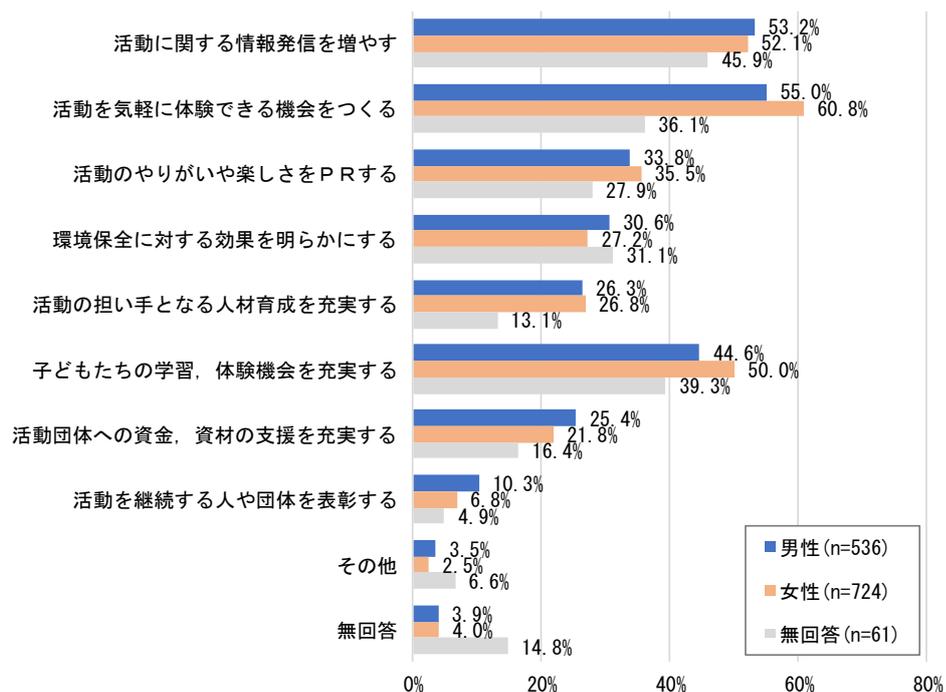


その他		※原則として原文のまま掲載している
気軽に参加できる工夫	<ul style="list-style-type: none"> ● 楽しく気軽に体験できるものならやってみたいです。持ち物(例えば長靴)があると、それを買わないといけないのでハードルが高くなります。私服で参加できる活動が良いです。 ● ボランティア活動を始め、一般市民が参加・貢献しやすい活動を企画願いたい。 ● 活動や団体を聞くと、かたくなしいイメージや拘束時間等が気になります。そうなるとなかなか気軽に参加するのが難しくなります。 ● 環境活動などは平日に行われているイメージ。土日に小さい子ども連れでも参加できる活動があるとよい。 ● 他の用事のついでに参加できたり、参加に申し込みが不要であるなど忙しい人でも参加できるための工夫が必要だと思う。 ● 時間を明確にしてほしい。1時間とか30分とか9~12の間で何分何時間でも良いとか選べたら参加しやすい。 ● 調布市に限らず夫婦共働きのご家庭が多いと思います。平日はもちろん、休日も子供の習い事や遊びに連れていったりと割く時間のない方々は本当に多いのではと思います。気軽にちょっと参加できる・負担にならない。この2点があれば、参加される方もいるのではないかと思います。 ● 短時間で活動、参加者に買物券、違反者・団体の公表 ● 物理的に簡単であれば良いと思う 	
企業、学校等との連携	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の企業に協力してもらい半強制的に活動に参加してもらおう ● 市内にオフィスを構える企業にアプローチしPRしてはいかがでしょうか。 ● シルバー人材センターとの連携強化 ● 自主的な参加ではなく、地域の学校と連携して行事として活動を行わせる ● ゴミの削減や資源のリサイクルに関する小中学校での教育を強化する。 	
楽しめる企画	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境活動と楽しいイベントを一緒にやる ● タレントさんの誘致 ● 若者が興味を持つ様な楽しいイベントを定期的に行う。 	

その他		※原則として原文のまま掲載している
一人ひとりの意識向上	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもたちに「汚さない」ということを当たり前にしてもらう ● 活動も大切だが人に迷惑をかけない様に気を付ける。 ● 活動は各自意識して行えばよいと思います。 ● 一人一人の行動がどのような環境負荷に繋がるか、日常の買物、食事などで気づく機会を増やす。 	
情報発信の充実	<ul style="list-style-type: none"> ● 何を、いつ、どこでしているのかを周知させる。駅前イベントなど。 ● スマホ等情報の発信が偏っている。ガラ系ケータイしか持っていない ● F a c e b o o k やインスタグラム等で拡散する 	
その他のご意見	<ul style="list-style-type: none"> ● 有償にする。 ● 市民税の優遇 ● 意識の高い人を高級で雇う ● ボランティアではなく、職員として雇用し責任を持たせる ● 市条例で義務化する ● サークル活動する、市施設等の充実 ● 新しい住宅街と旧住宅との垣根があるので是正していく。 ● 核家族化され閉鎖的になってしまった。昔の様に地元商店を利用し、色々なイベントに参加し、コミュニケーションをはかることが大切です。 ● 生活に余裕がないと活動できないと思う ● 興味なし ● やる人はやるし、やらない人は何もしてやらない。 ● 増やす必要はない ● 環境活動団体へ参加する人を増やすことは市が推進すべきことではない。環境施策は行うべき。 ● ムダ ● わからない ● なし 	

<問 10×性別>

○男女別で、地域の環境活動等への参加促進に重要だと考える取組に大きな差は見られない。



<問 10×年齢>

○年齢層別にみると、「活動のやりがいや楽しさをPRする」は20代が選択した割合が高い。
 ○「子どもたちの学習、体験機会を充実する」は、40代以下の年齢層において選択した割合が高い。

